

第1章 人口動態

1 平成20年の概況

人口動態統計の概況を第1.1表に示す。人口動態の項目ごとに平成20年の本県の年間発生数をみると、出生数は46,695人で、前年より302人増加し、出生率は9.3で前年と同程度であった。

死亡数は45,134人で、前年より1,215人増加し、死亡率は9.0で前年を0.2上回った。

自然増加数（出生数から死亡数を減じた数）は1,561人で、前年より913人減少し、自然増加率は0.3で前年を0.2下回った。

乳児死亡数は105人で、前年より5人減少し、乳児死亡率は2.2で、前年と同程度であった。

新生児死亡数は58人で、前年より4人増加し、新生児死亡率は1.2で前年と同じであった。

死産数は1,424胎で、前年より27胎減少し、死産率は29.6で前年と同程度であった。

周産期死亡数は201人で、前年より1人減少し、周産期死亡率は4.3で前年と同じであった。

婚姻件数は30,017件で、前年より531件増加し、婚姻率は6.0で前年を0.1上回った。

離婚件数は11,037件で、前年より78件減少し、離婚率は2.20で前年と同程度であった。

なお、全国との比較では、福岡県の出生率、死産率（人工）、婚姻率及び離婚率は全国よりも上回った。

第1.1表 人口動態統計の概況

項 目	福 岡 県						全 国	
	年 間 発 生 数			発 生 比 率		平成20年 平均発生間隔	発 生 比 率	
	平成20年	平成19年	対前年差	平成20年	平成19年	時:分'秒"	平成20年	平成19年
出 生	46,695	46,393	302	9.3	9.2	00:11'17"	8.7	8.6
死 亡	45,134	43,919	1,215	9.0	8.8	00:11'41"	9.1	8.8
自 然 増 加	1,561	2,474	-913	0.3	0.5	...	-0.4	-0.1
乳 児 死 亡	105	110	-5	2.2	2.4	83:39'26"	2.6	2.6
新 生 児 死 亡	58	54	4	1.2	1.2	151:26'54"	1.2	1.3
死 産	1,424	1,451	-27	29.6	30.3	06:10'07"	25.2	26.2
自 然 死 産	530	534	-4	11.0	11.2	16:34'25"	11.3	11.7
人 工 死 産	894	917	-23	18.6	19.2	09:49'32"	13.9	14.5
周 産 期 死 亡	201	202	-1	4.3	4.3	43:42'05"	4.3	4.5
妊娠満22週以後の死産	159	157	2	3.4	3.4	55:14'43"	3.4	3.5
早期新生児死亡	42	45	-3	0.9	1.0	209:08'34"	0.9	1.0
婚 姻	30,017	29,486	531	6.0	5.9	00:17'33"	5.8	5.7
離 婚	11,037	11,115	-78	2.20	2.22	00:47'45"	1.99	2.02

注：1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2) 人口は「平成20年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）を使用（全国125,947,000人、福岡県5,013,000人）。

2 出 生

(1) 出生の動向

出生数、出生率及び合計特殊出生率の推移を第2.1表及び図2.1に示す。平成20年の本県の出生数は46,695人、出生率は9.3で、前年の数、率ともやや上回り、昨年に引き続き増加傾向を示した。合計特殊出生率は1.37で、前年の1.34を上回り、平成17年以降増加傾向が続いている。

第2.1表 出生数・出生率（人口千対）・合計特殊出生率の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	出 生 数	出生率	合計特殊出生率	出 生 数	出生率	合計特殊出生率
昭和22年	108,237	34.1	...	2,678,792	34.3	4.54
" 25年	109,156	30.9	...	2,337,507	28.1	3.65
" 30年	76,427	19.8	...	1,730,692	19.4	2.37
" 35年	67,318	16.8	1.92	1,606,041	17.2	2.00
" 40年	68,854	17.4	2.00	1,823,697	18.6	2.14
" 45年	69,632	17.4	1.95	1,934,239	18.8	2.13
" 50年	71,059	16.7	1.83	1,901,440	17.1	1.91
" 55年	64,404	14.2	1.74	1,576,889	13.6	1.75
" 60年	58,837	12.4	1.75	1,431,577	11.9	1.76
平成 2年	48,164	10.1	1.52	1,221,585	10.0	1.54
" 7年	46,849	9.6	1.42	1,187,064	9.6	1.42
" 12年	47,290	9.5	1.36	1,190,547	9.5	1.36
" 13年	46,985	9.4	1.31	1,170,662	9.3	1.33
" 14年	46,443	9.3	1.29	1,153,855	9.2	1.32
" 15年	45,035	9.0	1.25	1,123,610	8.9	1.29
" 16年	45,143	9.0	1.25	1,110,721	8.8	1.29
" 17年	43,421	8.7	1.26	1,062,530	8.4	1.26
" 18年	45,304	9.0	1.30	1,092,674	8.7	1.32
" 19年	46,393	9.2	1.34	1,089,818	8.6	1.34
" 20年	46,695	9.3	1.37	1,091,156	8.7	1.37

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 合計特殊出生率は15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとした時の子ども数を表す。国勢調査年次は日本人人口、他の年次は推計人口を用いた。

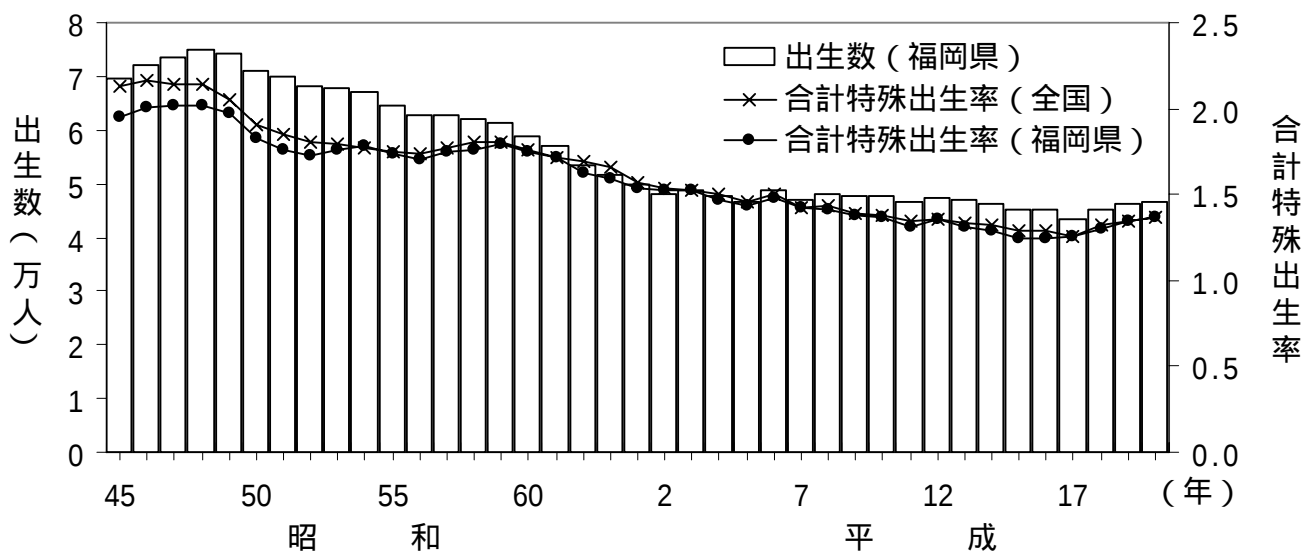


図2.1 出生数・合計特殊出生率の推移

平成 20 年の本県の市区町村別出生率を第 2.2 表及び図 2.2 に示す。最も出生率が高かったのは粕屋町の 17.7 だった。次いで志免町の 13.5、篠栗町の 13.4、那珂川町の 12.4 の順だった。北九州市、福岡市、久留米市及びその近郊に出生率の高い地域が集積している。

第 2.2 表 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成 20 年・福岡県）

市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率
粕屋町	17.7	広川町	9.7	芦屋町	8.4	豊前市	7.2
志免町	13.5	川恵町	9.7	桂川町	8.3	築上町	7.2
篠栗町	13.4	早良区	9.7	うきは市	8.3	門司区	7.2
那珂川町	12.4	前原市	9.5	小郡市	8.2	若松区	7.0
大野城市	12.1	直方市	9.2	小遠賀市	8.2	大田区	6.9
新宮町	11.8	田川市	9.2	香春町	8.1	大牟田	6.9
大木町	11.5	飯塚市	9.2	戸畑区	8.1	八幡市	6.8
大東区	10.8	宮若市	9.1	川崎町	8.0	二丈町	6.8
太宰府市	10.8	小倉北区	9.1	小嘉麻市	7.9	鞍手町	6.5
吉富町	10.7	八橋市	9.1	中津市	7.8	みやま市	6.3
小倉南区	10.4	行橋市	9.1	糸田町	7.7	みやま市	6.0
小野区	10.4	宇美町	8.9	福津市	7.7	東峰村	5.9
博多区	10.3	水巻町	8.9	筑前市	7.6	立花町	5.5
筑紫野市	10.3	大刀洗町	8.8	朝倉市	7.6	黒木町	5.3
春日市	10.2	中智町	8.7	上毛町	7.5	矢部村	4.8
苅田町	10.0	福岡区	8.6	志摩町	7.4	赤星村	3.6
筑後市	9.9	城南区	8.6	柳井町	7.4		2.7
筑前市	9.9	宗像市	8.5	大岡町	7.3		
南久留米市	9.8	八女市	8.4				
久留米市	9.8						

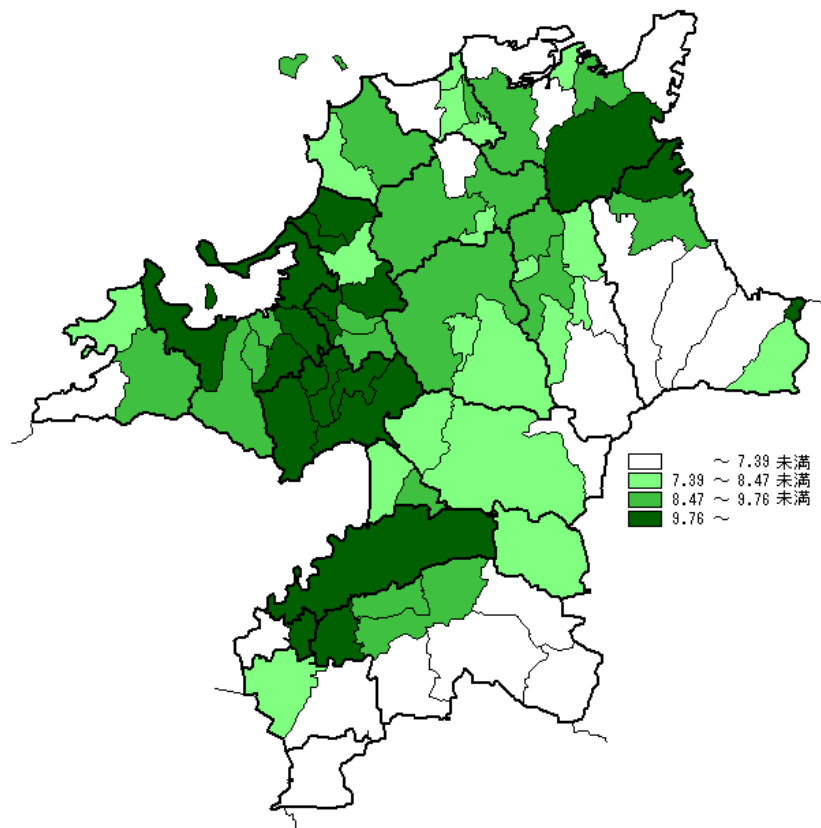


図 2.2 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成 20 年・福岡県）

(2) 人口の自然増加の状況

人口の自然増加の推移を第2.3表及び図2.3に示す。自然増加数及び自然増加率は出生数及び率の減少、死亡数及び率の増加とともに近年減少傾向を示している。平成20年をみると出生数は増加したものの、死亡数の増加がより大きいいため、自然増加数は前年に比べ減少した。なお、全国との比較では、この5年間は全国よりも上回って推移している。

第2.3表 自然増加数・自然増加率（人口千対）の推移

年 次	自然増加数	自然増加率		年 次	自然増加数	自然増加率	
	福岡県	福岡県	全 国		福岡県	福岡県	全 国
昭和22年	60,155	18.9	19.7	" 7年	9,691	2.0	2.1
" 25年	72,282	20.5	17.2	" 12年	8,785	1.8	1.8
" 30年	47,349	12.3	11.6	" 13年	8,345	1.7	1.6
" 35年	38,548	9.6	9.6	" 14年	7,029	1.4	1.4
" 40年	40,730	10.3	11.4	" 15年	4,265	0.8	0.9
" 45年	41,576	10.4	11.8	" 16年	3,999	0.8	0.7
" 50年	43,483	10.1	10.8	" 17年	746	0.1	-0.2
" 55年	34,887	7.6	7.3	" 18年	2,034	0.4	0.1
" 60年	27,949	5.9	5.6	" 19年	2,474	0.5	-0.1
平成 2年	14,569	3.0	3.3	" 20年	1,561	0.3	-0.4

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

(人口千対)

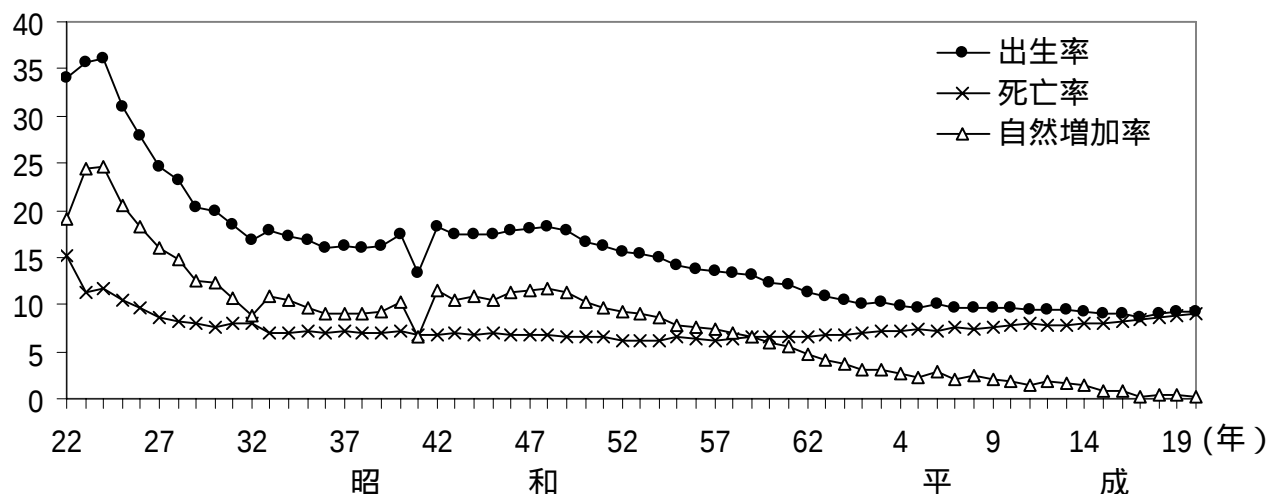


図2.3 出生率・死亡率・自然増加率の推移（福岡県）

(3) 出生順位別にみた出生数の状況

出生順位別にみた出生数・百分率の推移を第2.4表及び図2.4に示す。平成20年の本県の出生数は46,695人だった。出生順位の構成割合をみると、最も多かったのは第1児の21,533人(46.0%)だった。次いで第2児の16,931人(36.3%)、第3児の6,536人(14.0%)、第4児以上の1,695人(3.6%)の順だった。平成16年以降第3児の出生割合が増加している。

第2.4表 出生順位別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数	第1児		第2児		第3児		第4児以上		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数
昭和35年	67,318	29,595	44.0	22,073	32.8	9,549	14.2	6,101	9.1	0
" 40年	68,854	31,864	46.3	26,079	37.9	8,187	11.9	2,722	4.0	2
" 45年	69,632	31,347	45.0	27,144	39.0	8,980	12.9	2,161	3.1	0
" 50年	71,059	32,565	45.8	28,344	39.9	8,401	11.8	1,749	2.5	0
" 55年	64,404	27,032	42.0	25,664	39.8	9,901	15.4	1,807	2.8	0
" 60年	58,837	23,855	40.5	22,899	38.9	10,029	17.0	2,054	3.5	0
平成 2年	48,164	20,286	42.1	17,665	36.7	8,338	17.3	1,875	3.9	0
" 7年	46,849	21,688	46.3	16,705	35.7	6,713	14.3	1,743	3.7	0
" 12年	47,290	22,851	48.3	16,982	35.9	6,042	12.8	1,415	3.0	0
" 13年	46,985	22,592	48.1	16,919	36.0	6,033	12.8	1,441	3.1	0
" 14年	46,443	22,657	48.8	16,653	35.9	5,687	12.2	1,446	3.1	0
" 15年	45,035	21,618	48.0	16,521	36.7	5,466	12.1	1,430	3.2	0
" 16年	45,143	21,372	47.3	16,787	37.2	5,524	12.2	1,460	3.2	0
" 17年	43,421	20,635	47.5	16,032	36.9	5,328	12.3	1,426	3.3	0
" 18年	45,304	21,301	47.0	16,504	36.4	5,912	13.0	1,587	3.5	0
" 19年	46,393	21,695	46.8	16,848	36.3	6,303	13.6	1,547	3.3	0
" 20年	46,695	21,533	46.1	16,931	36.3	6,536	14.0	1,695	3.6	0

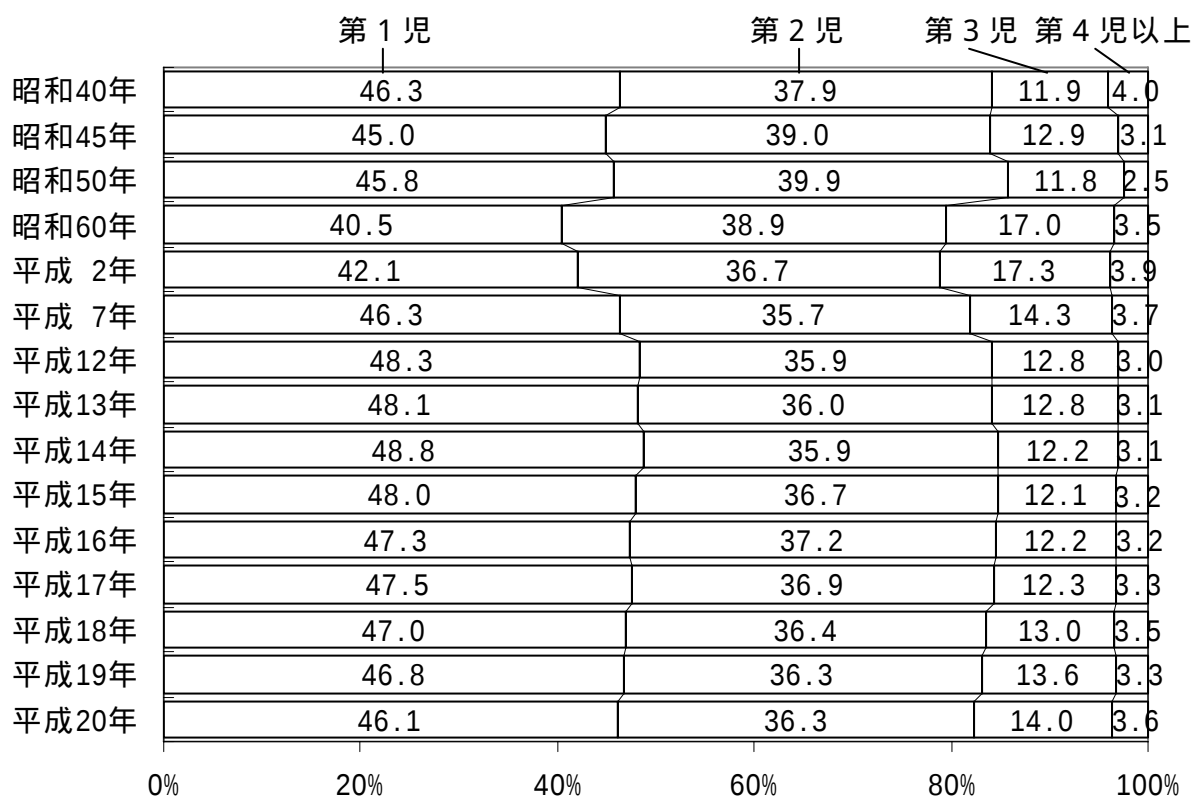


図2.4 出生順位別にみた出生割合の推移(福岡県)

(4) 母の年齢階級別にみた出生状況

母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移を第2.5表及び図2.5に示す。平成20年の本県状況をみると、最も多かったのは30～34歳の16,906人(36.2%)だった。次いで25～29歳の14,051人(30.1%)、35～39歳の7,908人(16.9%)、20～24歳の5,895人(12.6%)、40歳以上の1,119人(2.4%)、19歳以下の816人(1.7%)の順だった。近年35～39歳及び40歳以上の割合が増加している。

第2.5表 母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数	19歳以下		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳		40歳以上		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数
昭和35年	67,318	1,163	1.7	19,261	28.6	31,002	46.1	12,190	18.1	3,136	4.7	566	0.8	0
" 40年	68,854	753	1.1	17,893	26.0	32,658	47.4	14,284	20.7	2,849	4.1	417	0.6	0
" 45年	69,632	764	1.1	17,720	25.4	34,021	48.9	13,500	19.4	3,222	4.6	399	0.6	6
" 50年	71,059	689	1.0	17,777	25.0	37,900	53.3	11,866	16.7	2,470	3.5	357	0.5	0
" 55年	64,404	764	1.2	11,668	18.1	32,790	50.9	16,471	25.6	2,438	3.8	273	0.4	0
" 60年	58,837	885	1.5	9,713	16.5	27,383	46.5	16,282	27.7	4,189	7.1	384	0.7	1
平成 2年	48,164	783	1.6	7,445	15.5	20,469	42.5	14,719	30.6	4,150	8.6	598	1.2	0
" 7年	46,849	839	1.8	7,956	17.0	18,443	39.4	14,566	31.1	4,431	9.5	614	1.3	0
" 12年	47,290	972	2.1	7,052	14.9	18,437	39.0	15,043	31.8	5,148	10.9	637	1.3	1
" 13年	46,985	1,002	2.1	6,812	14.5	17,909	38.1	15,468	32.9	5,116	10.9	677	1.4	1
" 14年	46,443	1,021	2.2	6,772	14.6	17,078	36.8	15,700	33.8	5,141	11.1	730	1.6	1
" 15年	45,035	972	2.2	6,270	13.9	16,047	35.6	15,631	34.7	5,429	12.1	685	1.5	1
" 16年	45,143	927	2.1	5,993	13.3	15,267	33.8	16,338	36.2	5,856	13.0	762	1.7	0
" 17年	43,421	803	1.8	5,775	13.3	14,239	32.8	15,899	36.6	5,890	13.6	815	1.9	0
" 18年	45,304	787	1.7	6,001	13.2	14,316	31.6	16,543	36.5	6,832	15.1	825	1.8	0
" 19年	46,393	766	1.7	5,970	12.9	14,368	31.0	16,847	36.3	7,442	16.0	1,000	2.2	0
" 20年	46,695	816	1.7	5,895	12.6	14,051	30.1	16,906	36.2	7,908	16.9	1,119	2.4	0



図2.5 母の年齢階級別にみた出生割合の推移(福岡県)

(5) 出生の場所

出生場所別にみた出生数・百分率の推移を第2.6表及び図2.6に示す。平成20年の本県状況をみると、最も多かったのは診療所の31,850人(68.2%)だった。次いで病院の14,512人(31.1%)、助産所の249人(0.5%)、自宅の71人(0.2%)の順だった。18年以降病院での出生数が増加している。

第2.6表 出生場所別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数	病院		診療所		助産所		自宅		その他	
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率
昭和35年	67,318	13,128	19.5	11,573	17.2	5,333	7.9	30,789	45.7	6,495	9.6
" 40年	68,854	16,672	24.2	31,028	45.1	9,553	13.9	9,543	13.9	2,058	3.0
" 45年	69,632	18,838	27.1	39,966	57.4	8,489	12.2	1,905	2.7	434	0.6
" 50年	71,059	22,165	31.2	42,689	60.1	5,516	7.8	511	0.7	178	0.3
" 55年	64,404	22,134	34.4	39,233	60.9	2,803	4.4	147	0.2	87	0.1
" 60年	58,837	24,446	41.5	32,863	55.9	1,398	2.4	100	0.2	30	0.1
平成2年	48,164	17,976	37.3	29,633	61.5	509	1.1	38	0.1	8	0.0
" 7年	46,849	16,612	35.5	29,697	63.4	477	1.0	52	0.1	11	0.0
" 12年	47,290	15,989	33.8	30,903	65.3	335	0.7	53	0.1	10	0.0
" 13年	46,985	15,351	32.7	31,258	66.5	327	0.7	41	0.1	8	0.0
" 14年	46,443	14,727	31.7	31,362	67.5	281	0.6	62	0.1	11	0.0
" 15年	45,035	13,263	29.5	31,441	69.8	250	0.6	66	0.1	15	0.0
" 16年	45,143	13,328	29.5	31,455	69.7	283	0.6	66	0.1	11	0.0
" 17年	43,421	12,698	29.2	30,373	70.0	263	0.6	68	0.2	19	0.0
" 18年	45,304	13,087	28.9	31,846	70.3	302	0.7	55	0.1	14	0.0
" 19年	46,393	14,083	30.4	31,980	68.9	241	0.5	78	0.2	11	0.0
" 20年	46,695	14,512	31.1	31,850	68.2	249	0.5	71	0.2	13	0.0

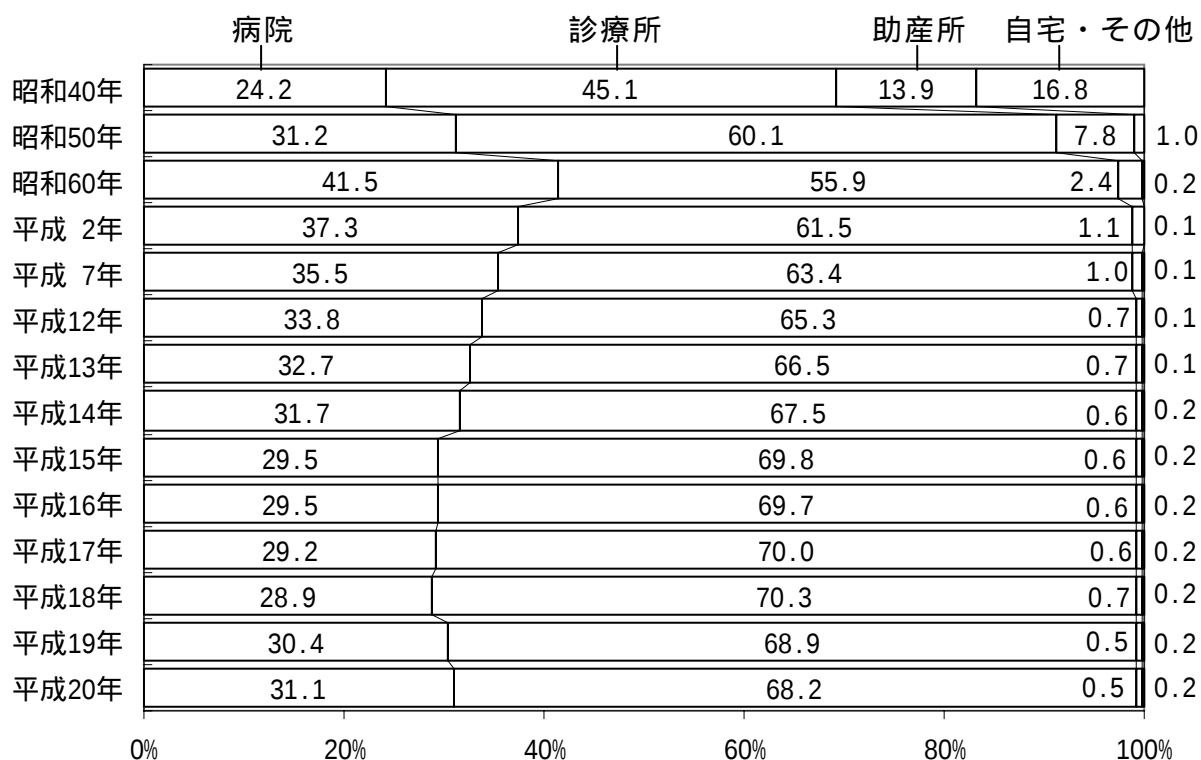


図2.6 出生場所別にみた出生割合の推移(福岡県)

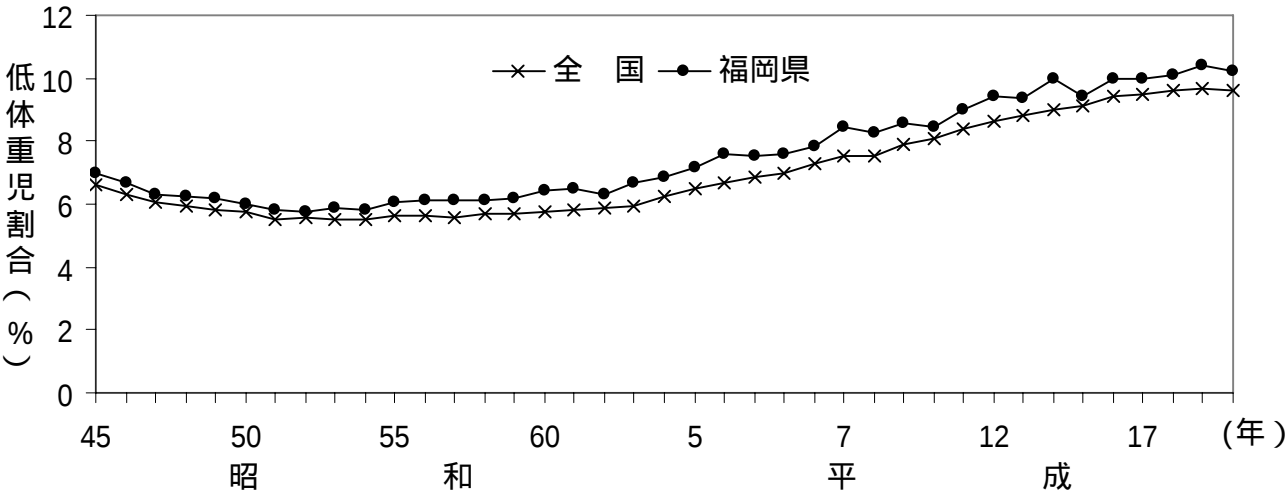
(6) 低体重児出生数

出生数に対する低体重児の構成割合の推移を第 2.7 表及び図 2.7 に示す。低体重児の構成割合は昭和 50 年代を底として漸増しており、平成 20 年の本県の低体重児出生数は 4,753 人、全出生数に対する低体重児の構成割合は 10.2% だった。本県の低体重児出生割合は全国と比べると常に上回って推移している。

第 2.7 表 低体重児出生数・割合の推移

年 次	低体重児出生数 (福岡県)	低体重児出生割合 (%)	
		福岡県	全 国
昭和35年	5,892	8.8	-
" 40年	5,628	8.2	-
" 45年	4,857	7.0	6.6
" 50年	4,249	6.0	5.8
" 55年	3,894	6.1	5.6
" 60年	3,783	6.4	5.7
平成 2年	3,465	7.2	6.5
" 7年	3,952	8.4	7.5
" 12年	4,453	9.4	8.6
" 13年	4,390	9.3	8.8
" 14年	4,646	10.0	9.0
" 15年	4,234	9.4	9.1
" 16年	4,515	10.0	9.4
" 17年	4,354	10.0	9.5
" 18年	4,567	10.1	9.6
" 19年	4,838	10.4	9.7
" 20年	4,753	10.2	9.6

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。
2) 平成7年からの低体重児は2,500g未満の出生数である。それ以前は2,500g以下の出生数である。



注：平成6年までは2500g以下の低体重児割合、平成7年からは2500g未満の低体重児割合である。

図 2.7 出生数に対する低体重児の構成割合の推移

平成 20 年の本県の保健所管内別低体重児割合を図 2.8 に示す。最も低体重児割合の低い保健所は糸島の 6.98% だった。次いで福岡市城南区の 8.26%、久留米の 8.43%、福岡市中央区の 8.95%、久留米市の 9.24% の順だった。

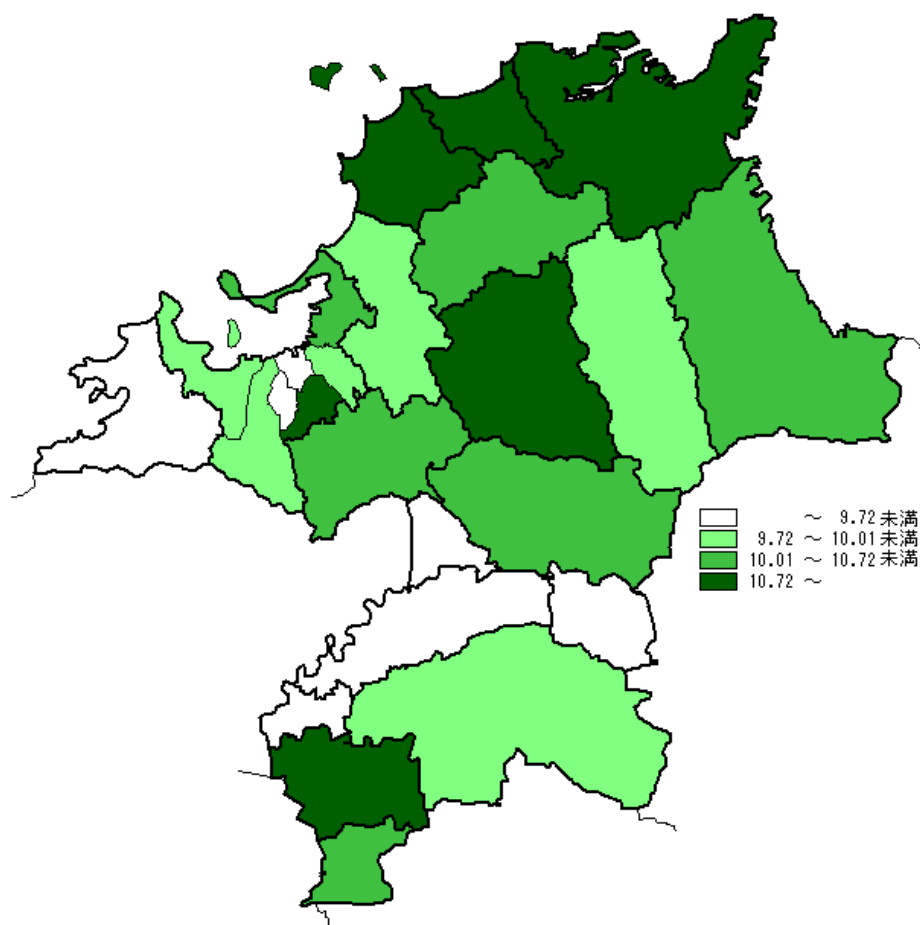


図 2.8 保健所管内別にみた出生数に対する低体重児の構成割合（平成 20 年・福岡県）

3 死 亡

(1) 死亡の動向

死亡数及び死亡率（人口千対）の推移を第3.1表に示す。平成20年の本県の死亡数は45,134人、死亡率は9.0だった。本県の死亡率の年次推移は全国の傾向とほぼ同様に推移し、近年高齢化の影響により、緩やかな上昇を示している。死亡率は高齢者が多いほど高くなる傾向にあるので、年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、年々減少している。

第3.1表 死亡数・死亡率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	死亡数	死亡率	年齢調整死亡率	死亡数	死亡率	年齢調整死亡率
昭和25年	36,874	10.4		904,876	10.9	16.3
" 30年	29,078	7.5		693,523	7.8	12.7
" 35年	28,770	7.2		706,599	7.6	12.3
" 40年	28,124	7.1		700,438	7.1	11.2
" 45年	28,056	7.0		712,962	6.9	10.1
" 50年	27,576	6.5		702,275	6.3	8.4
" 55年	29,517	6.5		722,801	6.2	7.3
" 60年	30,888	6.5		752,283	6.3	6.3
平成 2年	33,595	7.0	5.7	820,305	6.7	5.6
" 7年	37,158	7.6	5.3	922,139	7.4	5.3
" 12年	38,505	7.7	4.6	961,653	7.7	4.6
" 13年	38,640	7.7	4.5	970,331	7.7	4.4
" 14年	39,414	7.9	4.4	982,379	7.8	4.3
" 15年	40,770	8.1	4.4	1,014,951	8.0	4.3
" 16年	41,144	8.2	4.3	1,028,602	8.2	4.2
" 17年	42,675	8.5	4.3	1,083,796	8.6	4.3
" 18年	43,270	8.6	4.2	1,084,450	8.6	4.1
" 19年	43,919	8.8	4.1	1,108,334	8.8	4.1
" 20年	45,134	9.0	4.1	1,142,407	9.1	4.0

注：1) 年齢調整死亡率は福岡県保健環境研究所の計算による。計算に用いた年齢階級別人口は年齢階級別福岡県推計日本人人口（県調査統計課）を人口動態統計で用いる都道府県別日本人人口で補正した。

2) 空欄は福岡県年齢階級別日本人人口が入手できないため計算から除外した。

3) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 20 年の本県の市区町村別にみた死亡率を第 3.2 表及び図 3.1 に示す。本県で最も死亡率が低かったのは春日市の 5.5 であり、次いで大野城市の 6.0、福岡市中央区の 6.2、粕屋町及び福岡市城南区の 6.3 の順だった。福岡市及びその近郊に死亡率の低い地域が集積している。

第 3.2 表 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成 20 年・福岡県）

市 区 町 村 名	死亡率	市 区 町 村 名	死亡率	市 区 町 村 名	死亡率	市 区 町 村 名	死亡率
春日市	5.5	遠賀町	7.9	戸畑区	10.7	うきは市	13.2
大野城市	6.0	小倉南区	7.9	志摩町	10.8	小竹市	13.5
中央区	6.2	芦屋町	8.1	大木町	10.8	牟田町	13.6
粕屋町	6.3	宗像郡	8.1	直方市	11.0	大智市	14.0
城南区	6.3	小幡西米	8.3	柳川市	11.1	豊前市	14.0
那珂川町	6.5	八幡留米	8.8	八女市	11.3	みやこ町	14.2
紫野町	6.6	久留米市	8.9	若門司区	11.5	嘉麻市	14.3
筑紫宮町	6.7	須恵町	9.0	大川市	11.5	黒木町	14.6
早良区	6.8	福津市	9.4	中川町	11.6	星野村	15.0
博多区	6.9	久山町	9.6	鞍手町	11.8	矢部町	15.0
南区	6.9	筑前町	9.7	桂川町	11.9	系田町	15.2
宇美町	7.1	筑後市	9.7	朝倉市	12.2	築上町	15.3
古賀市	7.1	大刀洗町	9.8	香春町	12.4	立花町	15.5
篠栗町	7.3	大川町	9.8	八幡東区	12.6	川崎町	16.4
西志免町	7.3	小倉北区	10.1	宮若市	12.7	添田町	16.8
志原町	7.5	行橋市	10.4	吉富町	12.7	赤任村	17.9
前原市	7.6	二丈町	10.4	上毛町	13.0	大東町	19.0
太宰府市	7.7	岡垣町	10.5	田川町	13.1		20.8
苅田町	7.7	飯塚市	10.6	みやま市	13.2		
	7.8	水巻町	10.7				

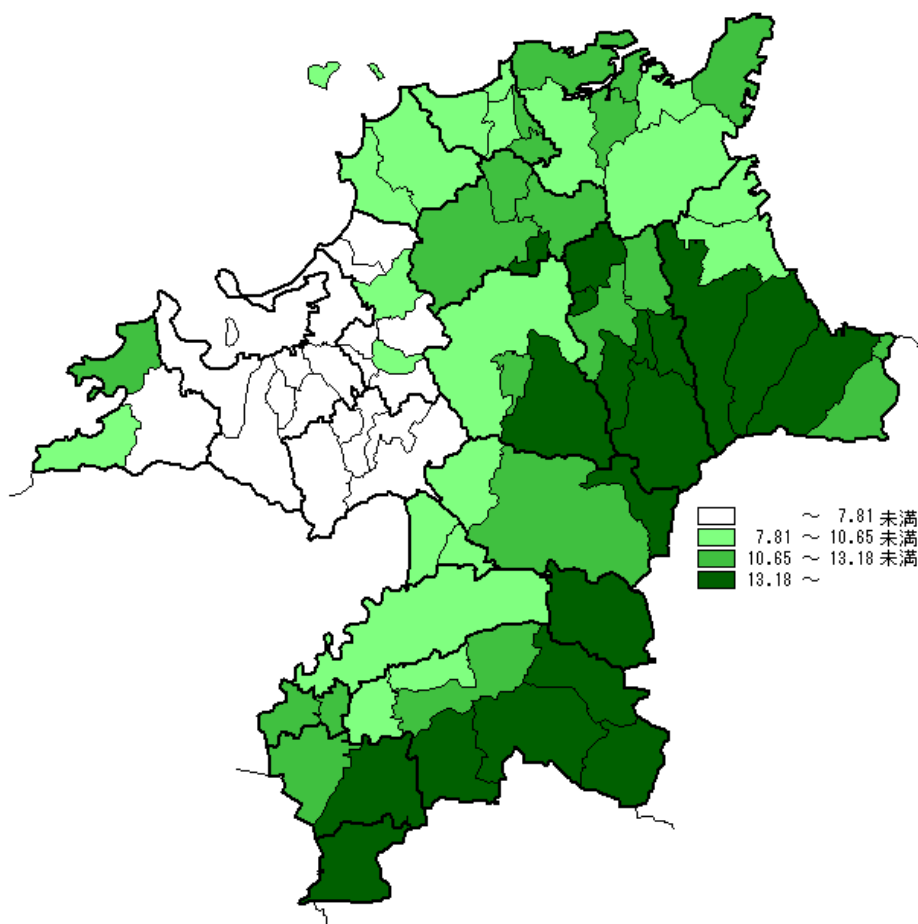
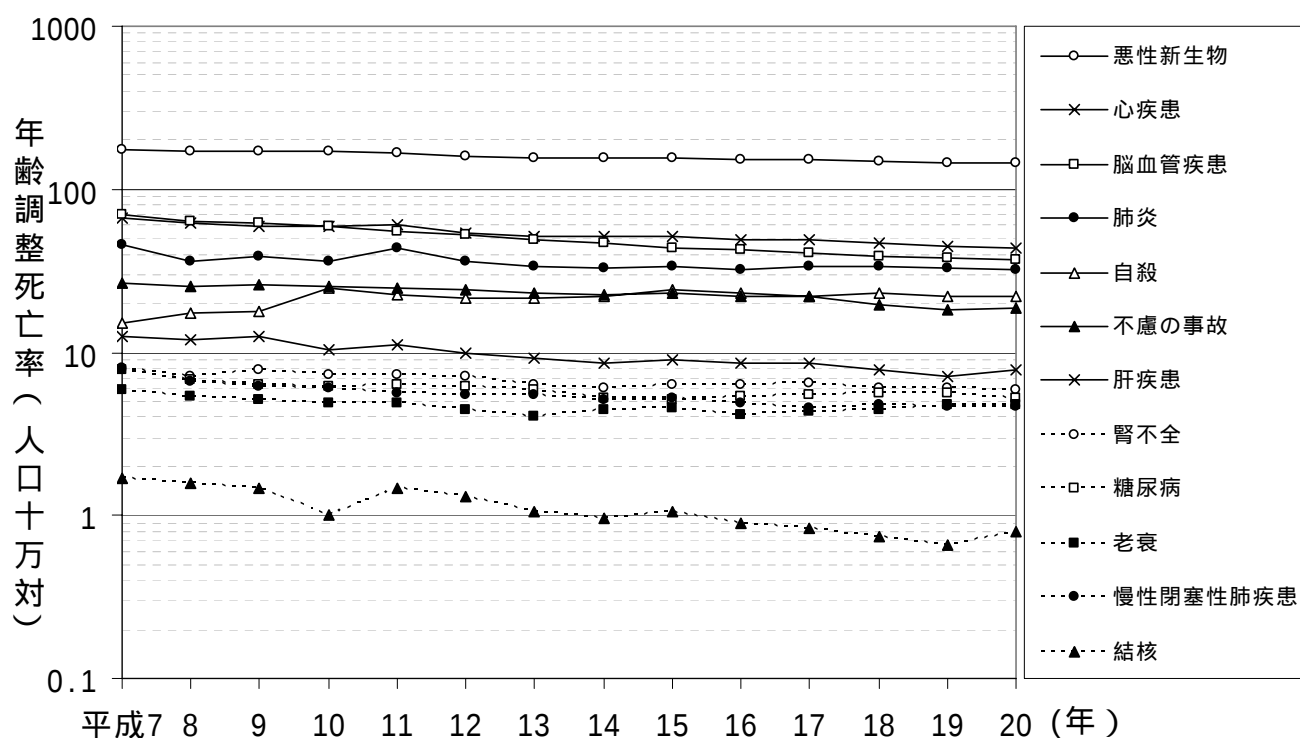
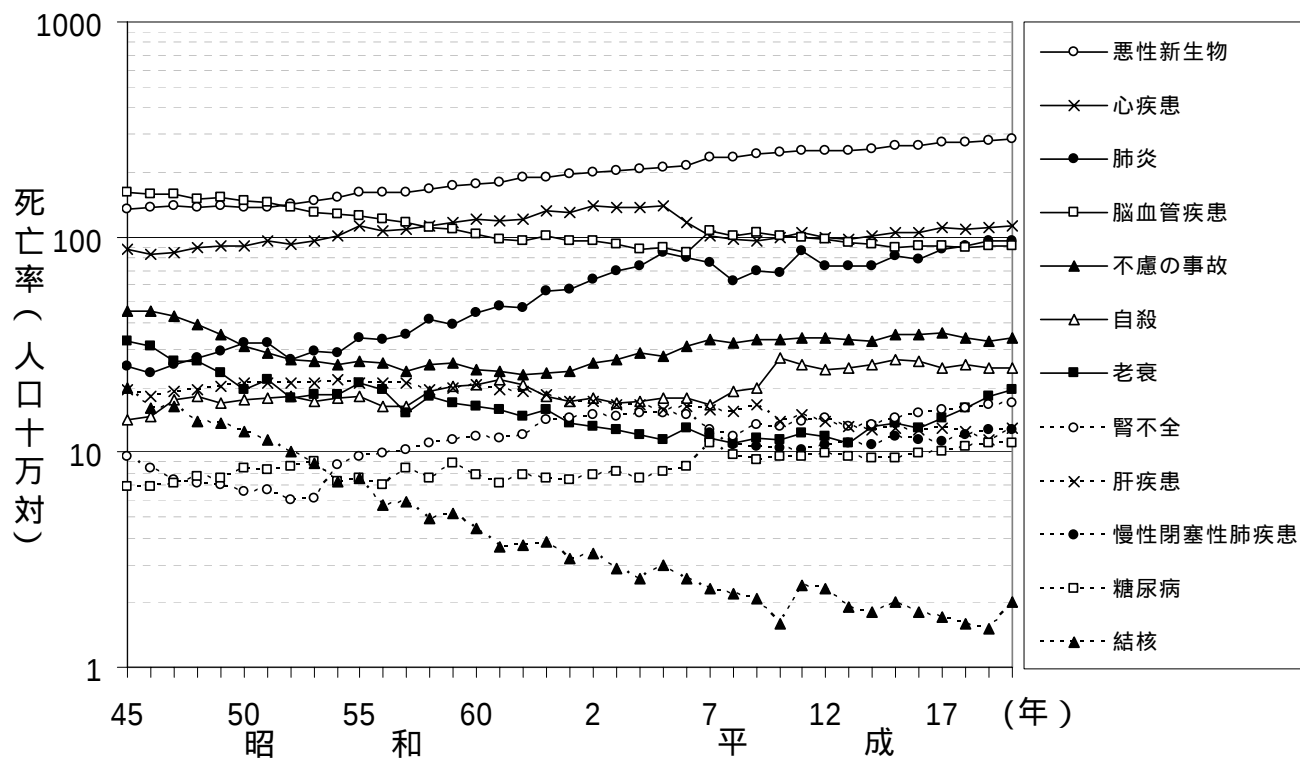


図 3.1 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成 20 年・福岡県）

(2) 主要死因

昭和 45 年から平成 20 年までの本県の主要死因別にみた死亡率を図 3.2 に示す。また、平成 7 年からの年齢調整死亡率を図 3.3 に示す。死亡率は人口の高齢化の影響で悪性新生物、心疾患、肺炎、腎不全、老衰、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患等の増加傾向がみられたが、年齢構成を補正した年齢調整死亡率では、悪性新生物、心疾患は減少傾向を示している。老衰は平成 17 年以降は年齢調整死亡率においても増加に転じている。脳血管疾患は死亡率、年齢調整死亡率とも減少傾向が続いている。結核は死亡率、年齢調整死亡率とも減少傾向が続いている。



死因別順位別にみた死亡数及び死亡率を第 3.3 表に示す。平成 20 年の本県の死因別順位をみると、1 位は悪性新生物の 14,328 人（人口 10 万対 285.8）、2 位は心疾患の 5,610 人（111.9）、3 位は肺炎の 4,826 人（96.3）、4 位は脳血管疾患の 4,527 人（90.3）であり、8 位までは昨年と同様だった。

第 3.3 表 死因・順位別にみた死亡数・死亡率（人口 10 万対）の推移（福岡県）

上段：死亡数（人）
下段：死亡率（人口 10 万対）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
平成 11 年	悪性新生物 12,471 250.7	心疾患 5,254 105.6	脳血管疾患 4,916 98.8	肺炎 4,286 86.2	不慮の事故 1,702 34.2	自殺 1,265 25.4	肝疾患 738 14.8	腎不全 687 13.8	老衰 613 12.3	慢性閉塞性肺疾患 505 10.2
平成 12 年	悪性新生物 12,503 250.8	心疾患 4,941 99.1	脳血管疾患 4,863 97.6	肺炎 3,666 73.5	不慮の事故 1,687 33.8	自殺 1,213 24.3	腎不全 717 14.4	肝疾患 688 13.8	老衰 586 11.8	慢性閉塞性肺疾患 536 10.8
平成 13 年	悪性新生物 12,531 250.6	心疾患 4,917 98.3	脳血管疾患 4,738 94.7	肺炎 3,635 72.7	不慮の事故 1,656 33.1	自殺 1,230 24.6	肝疾患 662 13.2	腎不全 655 13.1	老衰 557 11.1	慢性閉塞性肺疾患 554 11.1
平成 14 年	悪性新生物 12,953 258.5	心疾患 5,093 101.6	脳血管疾患 4,665 93.1	肺炎 3,689 73.6	不慮の事故 1,649 32.9	自殺 1,280 25.5	腎不全 664 13.3	老衰 657 13.1	肝疾患 632 12.6	慢性閉塞性肺疾患 547 10.9
平成 15 年	悪性新生物 13,343 265.9	心疾患 5,274 105.1	脳血管疾患 4,493 89.5	肺炎 4,073 81.2	不慮の事故 1,774 35.4	自殺 1,352 26.9	腎不全 719 14.3	老衰 685 13.7	肝疾患 650 13.0	慢性閉塞性肺疾患 590 11.8
平成 16 年	悪性新生物 13,415 267.0	心疾患 5,285 105.2	脳血管疾患 4,607 91.7	肺炎 3,926 78.1	不慮の事故 1,768 35.2	自殺 1,326 26.4	腎不全 759 15.1	老衰 654 13.0	肝疾患 634 12.6	慢性閉塞性肺疾患 577 11.5
平成 17 年	悪性新生物 13,700 273.4	心疾患 5,545 110.7	脳血管疾患 4,544 90.7	肺炎 4,408 88.0	不慮の事故 1,784 35.6	自殺 1,235 24.6	腎不全 789 15.7	老衰 726 14.5	肝疾患 650 13.0	慢性閉塞性肺疾患 561 11.2
平成 18 年	悪性新生物 13,903 277.2	心疾患 5,486 109.4	肺炎 4,557 90.9	脳血管疾患 4,503 89.8	不慮の事故 1,699 33.9	自殺 1,291 25.7	腎不全 800 16.0	老衰 796 15.9	肝疾患 621 12.4	慢性閉塞性肺疾患 608 12.1
平成 19 年	悪性新生物 14,130 281.7	心疾患 5,524 110.1	肺炎 4,799 95.7	脳血管疾患 4,551 90.7	不慮の事故 1,644 32.8	自殺 1,241 24.7	老衰 919 18.3	腎不全 836 16.7	慢性閉塞性肺疾患 636 12.7	肝疾患 571 11.4
平成 20 年	悪性新生物 14,328 285.8	心疾患 5,610 111.9	肺炎 4,826 96.3	脳血管疾患 4,527 90.3	不慮の事故 1,701 33.9	自殺 1,227 24.5	老衰 971 19.4	腎不全 852 17.0	肝疾患 649 12.9	慢性閉塞性肺疾患 633 12.6

注：ICD-10による分類である。

死亡数に占める各主要死因の構成割合を図 3.4 に示す。平成 20 年に本県で最も多かった死因は悪性新生物の 31.7%だった。次いで心疾患の 12.4%、肺炎の 10.7%の順だった。

性・主要死因別にみた死亡数、死亡率及び死亡率性比を第 3.4 表に示す。平成 20 年の本県の全死因死亡数及び死亡率をみると、男が 23,514 人（人口 10 万対 991.7）、女が 21,620 人（818.3）だった。男で最も多かった死因は悪性新生物の 8,348 人（352.1）だった。次いで肺炎の 2,500 人（105.4）、心疾患の 2,401 人（101.3）、脳血管疾患の 2,115 人（89.2）、不慮の事故の 979 人（41.3）の順だった。また、女で最も多かった死因は悪性新生物の 5,980 人（226.3）だった。次いで心疾患の 3,209 人（121.5）、脳血管疾患の 2,412 人（91.3）、肺炎の 2,326 人（88.0）、老衰の 783 人（29.6）の順だった。慢性閉塞性肺疾患及び自殺は死亡率性比が 3 以上、肝疾患は死亡率性比が約 2 であり、男に多い死因といえる。

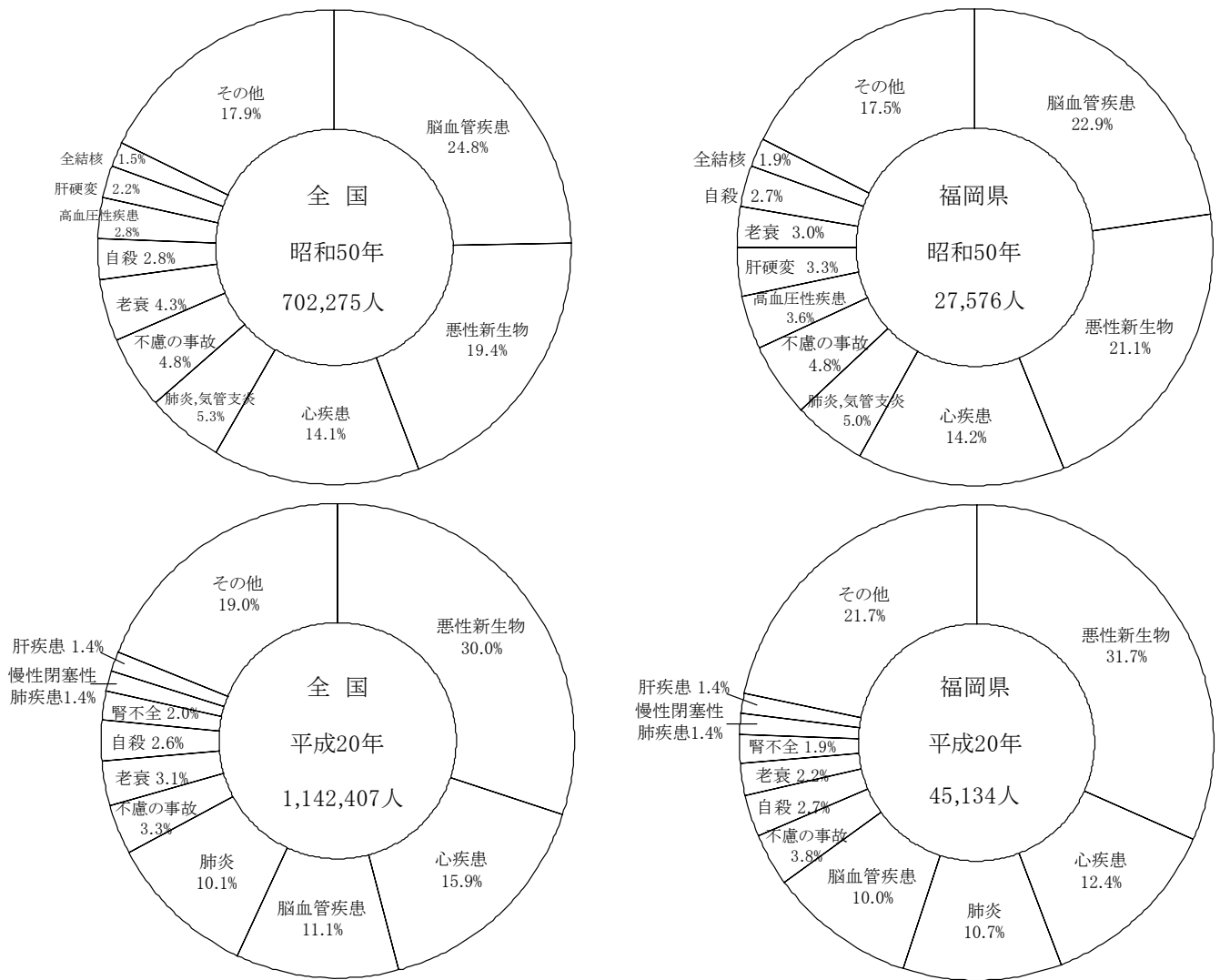


図 3.4 死亡数に占める各主要死因の構成割合

第 3.4 表 性・主要死因別にみた死亡数・死亡率(人口 10 万対)・死亡率性比(平成 20 年・福岡県)

死 因	男		女		死亡率性比
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	
総 数	23,514	991.7	21,620	818.3	1.21
悪 性 新 生 物	8,348	352.1	5,980	226.3	1.56
肺 炎	2,500	105.4	2,326	88.0	1.20
心 疾 患	2,401	101.3	3,209	121.5	0.83
脳 血 管 疾 患	2,115	89.2	2,412	91.3	0.98
不 慮 の 事 故	979	41.3	722	27.3	1.51
自 殺	910	38.4	317	12.0	3.20
慢 性 閉 塞 性 肺 疾 患	493	20.8	140	5.3	3.92
肝 疾 患	418	17.6	231	8.7	2.02
腎 不 全	353	14.9	499	18.9	0.79
老 衰	188	7.9	783	29.6	0.27

注：1) 人口は「平成20年10月1日現在、都道府県男女別日本人人口」（総務省）使用(男:2,371,000人、女:2,642,000人)。

2) 死亡率性比 = 男の死亡率 / 女の死亡率。男の死亡率が女の死亡率の何倍にあたるかを表す。

(3) 三大死因

1) 悪性新生物

悪性新生物の主な部位別死亡数を第3.5表に示す。悪性新生物の死亡数は昭和55年以降常に増加している。平成20年の本県の悪性新生物による死亡数は、前年と比較して198人増加し、14,328人だった。また、死亡率（人口10万対）は285.8で前年の281.7を上回った。

3.5表 主要部位別にみた悪性新生物の死亡数の推移（福岡県）

年次	総数	食道	胃	結腸	直腸・S状移行部	肝及び肝内胆管	胆のう及び他の胆道	膵	気管、気管支及び肺	乳房	子宮	卵巣	前立腺	白血病	その他
昭和55年	7,287	232	2,097	350	267	893	236	343	1,004	182	287	84	78	202	1,032
" 60年	8,350	205	1,878	511	316	1,300	433	420	1,308	213	240	102	88	192	1,144
平成2年	9,474	258	1,751	628	379	1,637	486	538	1,610	245	201	122	124	245	1,250
" 7年	11,414	287	1,901	799	425	2,008	572	664	2,020	310	226	146	203	292	1,561
" 12年	12,503	386	1,916	980	413	2,020	590	708	2,275	389	238	140	304	335	1,809
" 13年	12,531	378	1,832	969	459	1,991	638	751	2,334	376	250	116	313	334	1,790
" 14年	12,953	423	1,820	996	498	2,074	656	807	2,329	401	243	129	329	346	1,902
" 15年	13,343	407	1,941	1,094	515	2,158	634	806	2,369	429	218	156	356	333	1,927
" 16年	13,415	420	1,896	1,071	515	2,017	644	883	2,519	418	231	184	329	331	1,957
" 17年	13,700	402	1,858	1,140	510	2,079	632	813	2,637	495	206	167	326	359	2,076
" 18年	13,903	417	1,959	1,148	489	2,024	704	877	2,551	492	261	188	372	349	2,072
" 19年	14,130	411	1,905	1,108	501	2,017	660	1,020	2,742	489	238	173	363	402	2,101
" 20年	14,328	458	1,850	1,149	534	2,009	698	1,012	2,786	520	243	171	393	368	2,137

注：1) 平成7年からはICD-10の分類区分に基づき集計した。それ以前は、厚生省が作成したICD-9とICD-10の新旧比較表をもとに、ICD-10の分類に変換して集計した。

3) 乳房は女のための数値であり、男の乳房の数値はその他に計上している。

本県の悪性新生物の性・部位別死亡割合を図3.5に示す。平成20年の本県の悪性新生物による死亡数は、男が8,348人、女が5,980人だった。また、構成割合をみると、男女ともに気管・気管支及び肺、肝及び肝内胆管、胃が多く、これら3部位による死亡数が全体の悪性新生物死亡数に占める割合は、男が52.7%、女が37.6%だった。

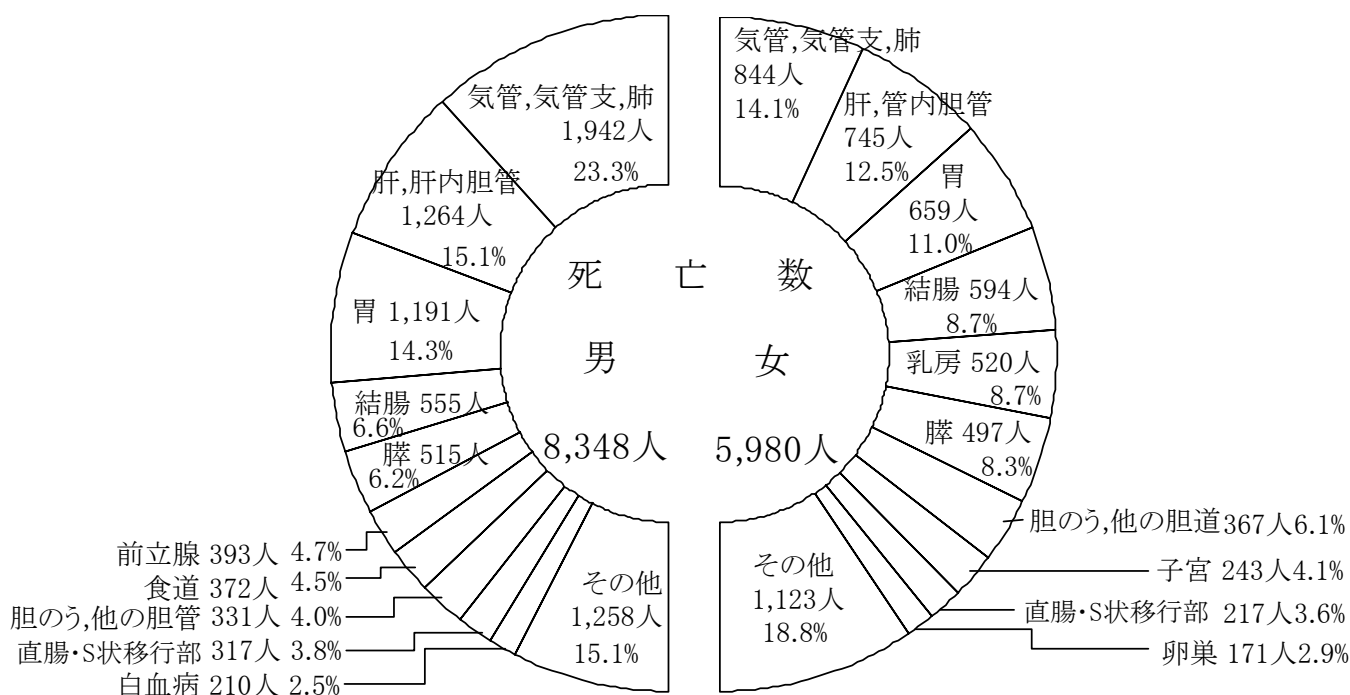


図3.5 性・部位別にみた悪性新生物の死亡数・構成割合（平成20年・福岡県）

本県の昭和 55 年から平成 20 年までの悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）を図 3.6 に示す。また、平成 7 年からの年齢調整死亡率を図 3.7 に示す。死亡率では増加傾向を示す部位が多いが、これは人口の高齢化の影響である。年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、気管、気管支及び肺、肝及び管内胆管、胃などの部位は減少傾向にある。ただし、乳房（女のみ）は年齢調整死亡率でも緩やかな上昇傾向にある。

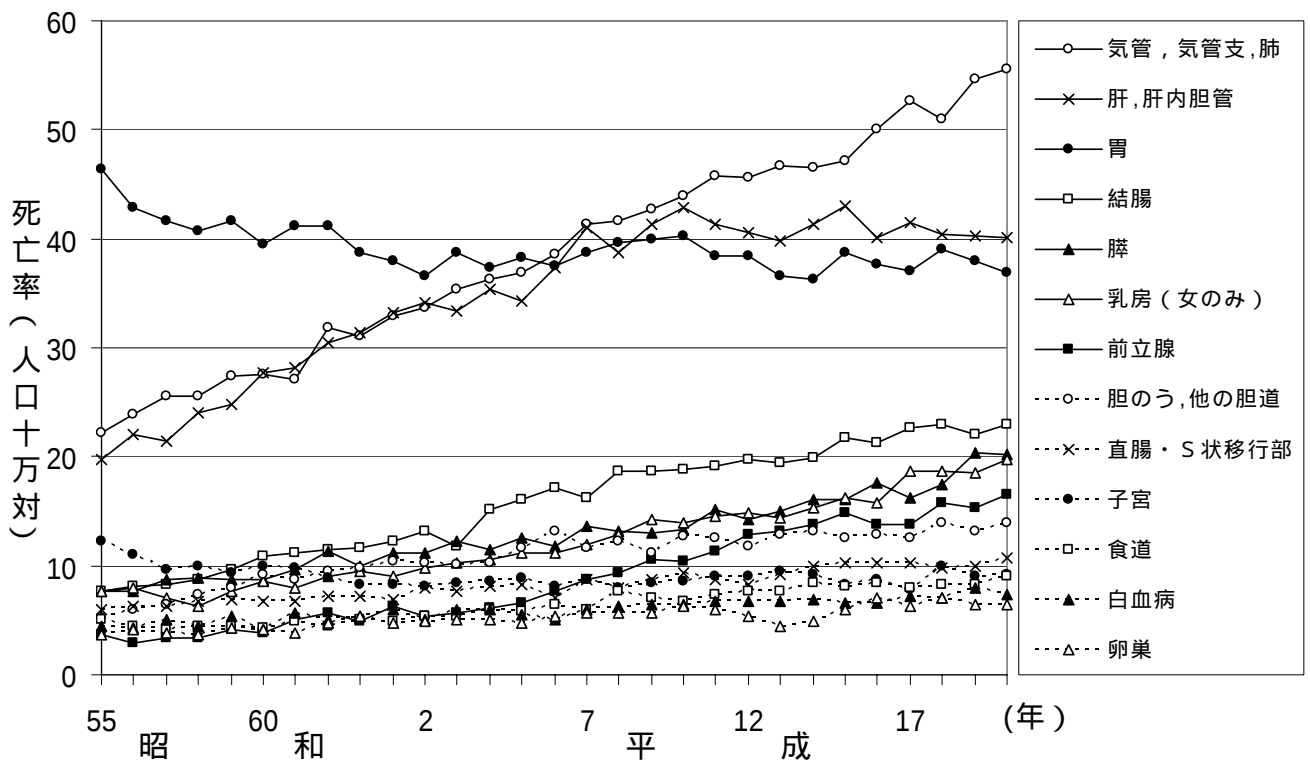


図 3.6 主要部位別にみた悪性新生物の死亡率（人口 10 万対）の推移（福岡県）

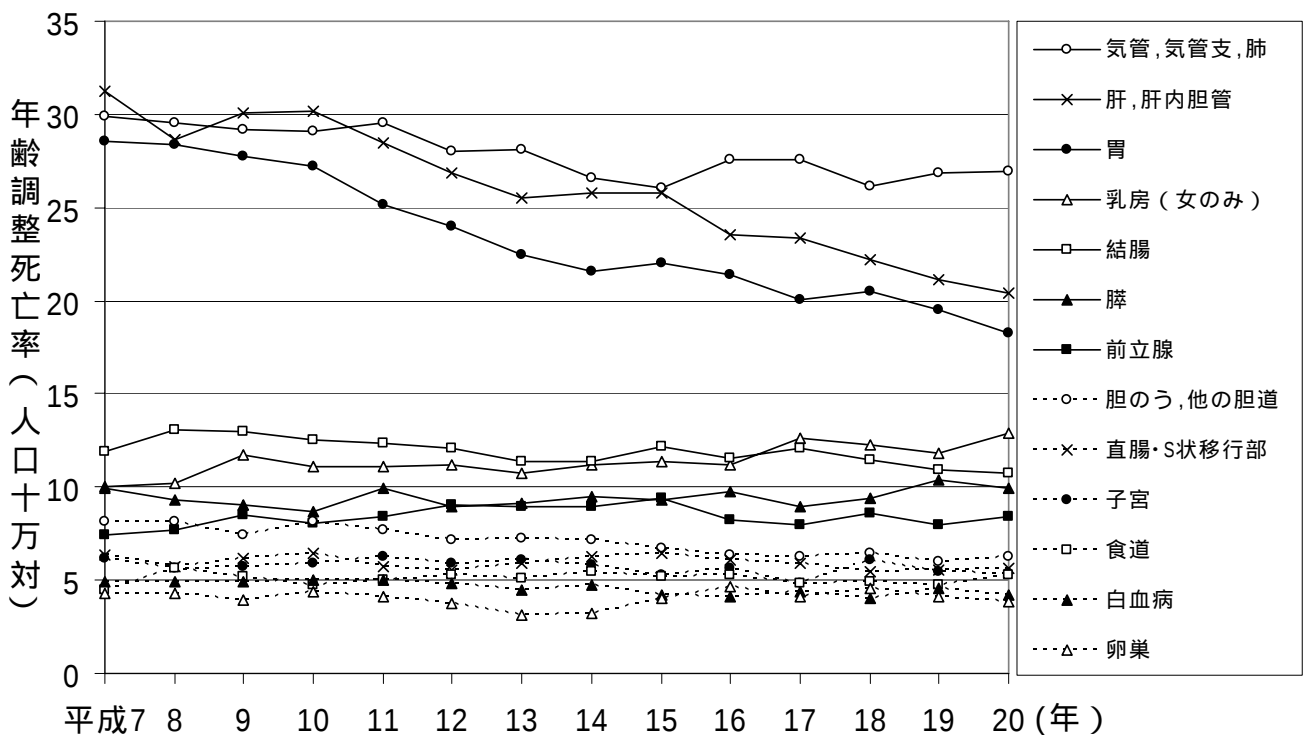


図 3.7 主要部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率（人口 10 万対）の推移（福岡県）

2) 心疾患

心疾患の死因別割合を図 3.8 に示す。平成 20 年の本県の心疾患による死亡数は 5,610 人で前年の 5,524 人に比べ 86 人増加した。また、心疾患死亡数の構成割合をみると、最も多かったのは心不全の 1,909 人（34.0％）だった。次いで急性心筋梗塞の 1,409 人（25.1％）、その他の虚血性心疾患の 837 人（14.9％）の順だった。

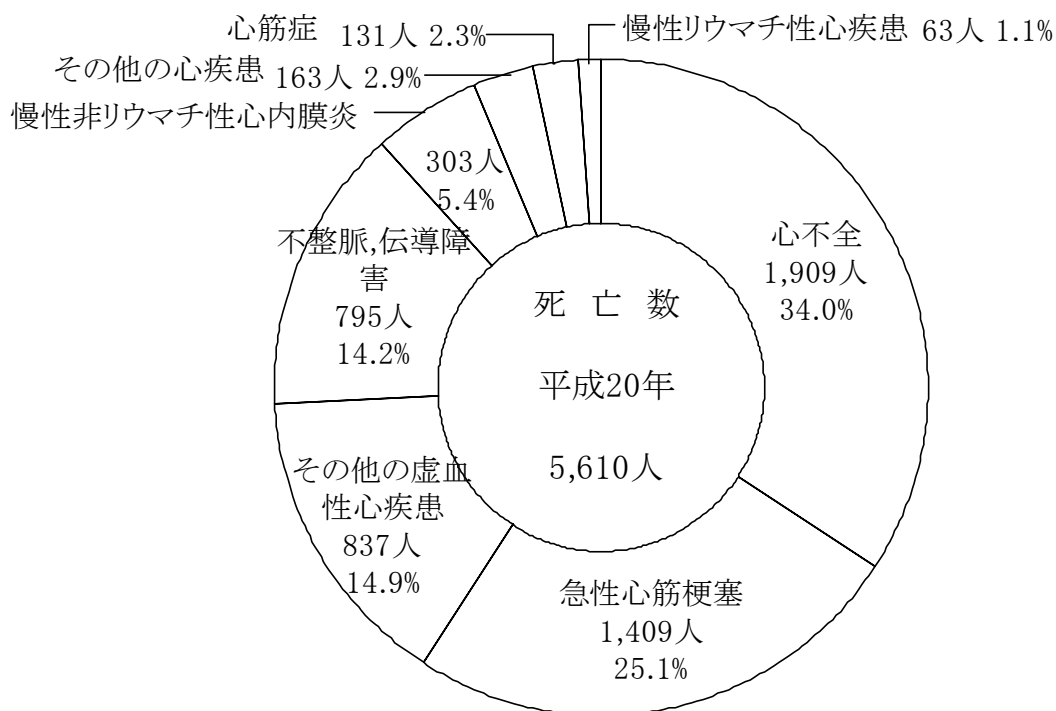


図 3.8 心疾患の死因別にみた割合（平成 20 年・福岡県）

3) 脳血管疾患

脳血管疾患の死因別割合を図 3.9 に示す。平成 20 年の本県の脳血管疾患による死亡数は 4,527 人で前年の 4,551 人に比べ 24 人減少した。また、脳血管疾患の構成割合をみると、最も多かったのは脳梗塞 2,702 人（59.7％）だった。次いで脳内出血の 1,198 人（26.5％）、くも膜下出血の 506 人（11.2％）の順だった。

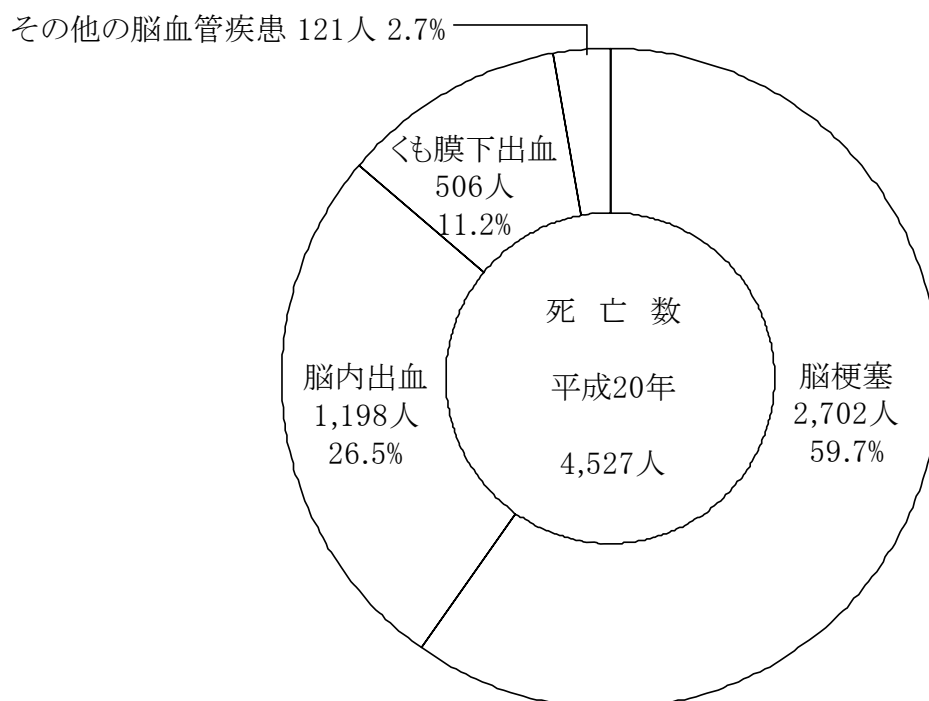


図 3.9 脳血管疾患の死因別にみた割合（平成 20 年・福岡県）

(4) 乳児死亡

乳児死亡を死亡統計でとりあげるのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるため、乳児死亡率はその地域の衛生状態の良否、ひいては経済や教育を含めた社会状態を反映する指標の一つと考えられるからである。

乳児死亡数（率）の推移を第 3.6 表に示す。平成 20 年の本県の乳児死亡数は 105 人、乳児死亡率は 2.2 だった。

第 3.6 表 乳児死亡数・乳児死亡率（出生千対）の推移

年 次	乳児死亡数 （福岡県）	乳児死亡率		年 次	乳児死亡数 （福岡県）	乳児死亡率	
		福岡県	全 国			福岡県	全 国
昭和22年	8,748	80.8	76.7	" 7年	230	4.9	4.3
" 25年	5,715	52.4	60.1	" 12年	162	3.4	3.2
" 30年	2,539	33.2	39.8	" 13年	134	2.9	3.1
" 35年	1,828	27.2	30.7	" 14年	162	3.5	3.0
" 40年	1,154	16.8	18.5	" 15年	156	3.5	3.0
" 45年	869	12.5	13.1	" 16年	134	3.0	2.8
" 50年	568	8.0	10.0	" 17年	109	2.5	2.8
" 55年	442	6.9	7.5	" 18年	90	2.0	2.6
" 60年	324	5.5	5.5	" 19年	110	2.4	2.6
平成 2年	223	4.6	4.6	" 20年	105	2.2	2.6

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

死因別にみた乳児死亡数と構成割合を図 3.10 に示す。本県で最も多かったのは先天奇形、変形、染色体異常の 43 人（41.0％）だった。次いで周産期の呼吸障害、心血管障害の 15 人（14.3％）、出血性障害、血液障害の 7 人（6.7％）の順だった。

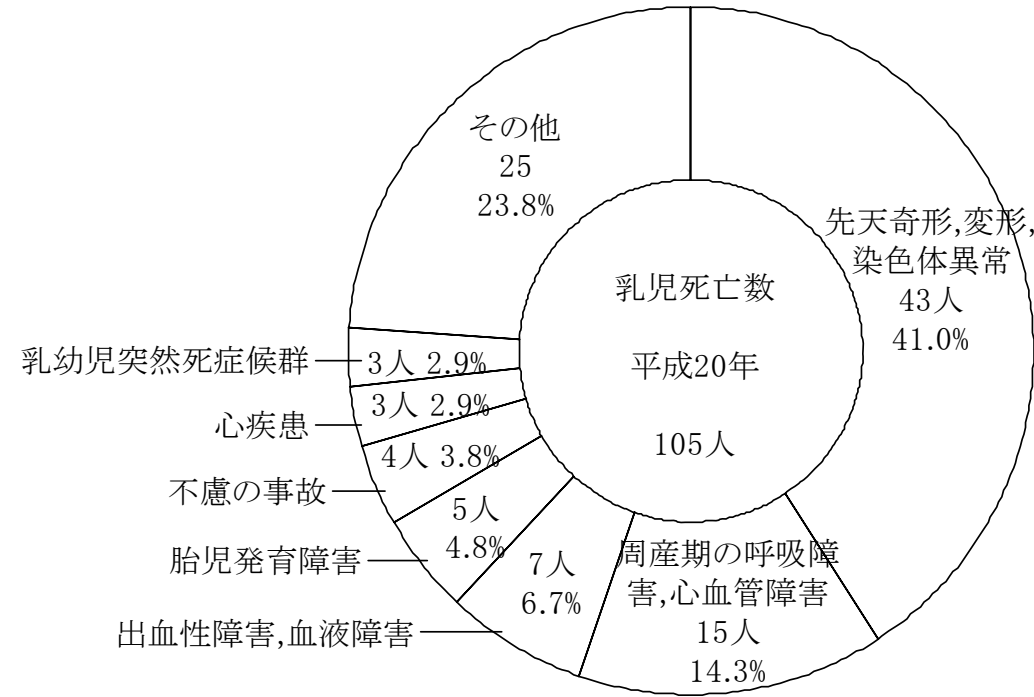


図 3.10 乳児死亡の死因別割合（平成 20 年・福岡県）

平成 20 年の本県の保健所管内別にみた乳児死亡率を図 3.11 に示す。田川、朝倉は乳児死亡数が 0 だった。率が低かったのは福岡市西区の 0.52、嘉穂の 0.61、福岡市城南区の 0.91 の順だった。

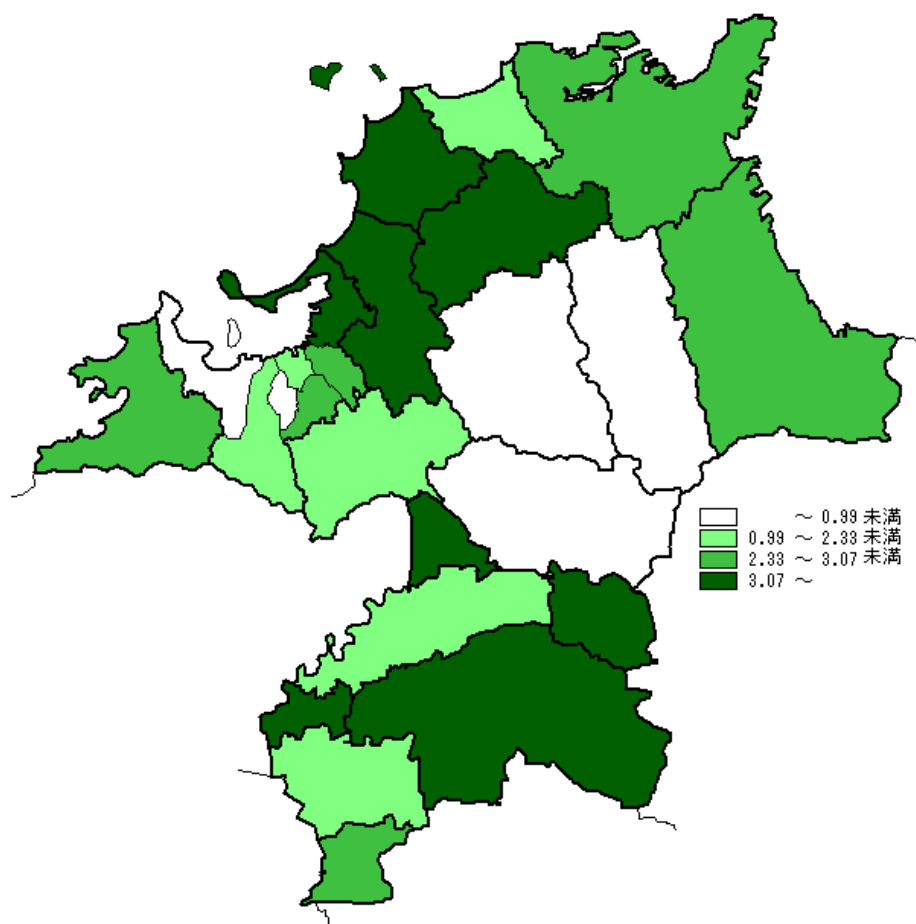


図 3.11 保健所管内別にみた乳児死亡率（出生千対）（平成 20 年・福岡県）

(5) 周産期死亡

周産期死亡で死亡統計をとりあげるのは、妊娠 22 週以後の死産と早期新生児死亡がともに母体の健康状態に強く影響される共通性が認められるからであり、1950 年以降 WHO によって提唱されたものである。

周産期死亡数及び周産期死亡率の推移を第 3.7 表に示す。平成 20 年の本県の周産期死亡数は 201 人、周産期死亡率（出産千対）は 4.3 だった。

第 3.7 表 周産期死亡数・周産期死亡率の推移

年 次	周産期死亡数 （福岡県）	周産期死亡率		年 次	周産期死亡数 （福岡県）	周産期死亡率	
		福岡県	全 国			福岡県	全 国
昭和35年	3,161	47.0	41.4	" 13年	247	5.2	5.5
" 40年	2,315	33.6	30.1	" 14年	241	5.2	5.5
" 45年	1,654	23.8	21.7	" 15年	240	5.3	5.3
" 50年	1,085	15.3	16.0	" 16年	212	4.7	5.0
" 55年	687	10.7	11.7	" 17年	209	4.8	4.8
" 60年	443	7.5	8.0	" 18年	177	3.9	4.7
平成 2年	292	6.1	5.7	" 19年	202	4.3	4.5
" 7年	295	6.3	7.0	" 20年	201	4.3	4.3

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 平成7年からの周産期死亡数は妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。それ以前は妊娠満28週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。

3) 平成7年からの周産期死亡率は出産千対（出生数＋妊娠満22週以後の死産）である。それ以前は出生千対である。

平成 20 年の本県の保健所管内別の周産期死亡率を図 3.12 に示す。周産期死亡率が低かったのは田川の 0.88、嘉穂の 1.21、大牟田市の 2.33、久留米市の 2.70、福岡市早良区の 2.95 の順だった。

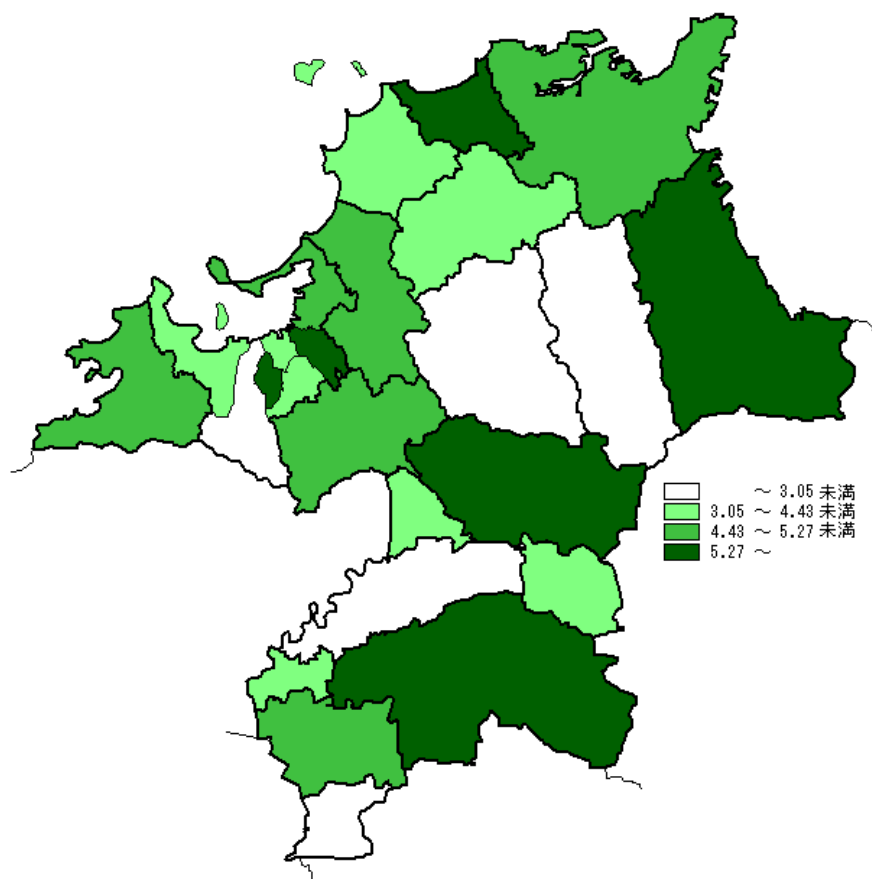


図 3.12 保健所管内別にみた周産期死亡率（出産千対）（平成 20 年・福岡県）

(6) 高齢者（65 歳以上）死亡

65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移を第 3.8 表及び図 3.13 に示す。平成 20 年推計人口（県調査統計課）によると、本県の 65 歳以上の日本人人口は 1,078,013 人で、全人口の 21.5% を占めている。平成 20 年の本県の高齢者における死亡数は 37,731 人、死亡率（人口千対）は 35.0 だった。

第 3.8 表 65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率		死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和45年	16,738	57.1	438,362	60.0	" 14年	31,517	34.1	786,960	33.4
" 50年	17,897	50.4	459,385	52.0	" 15年	32,944	34.8	818,922	33.8
" 55年	20,097	47.1	503,067	47.4	" 16年	33,262	34.4	834,233	33.7
" 60年	21,463	43.0	535,260	43.3	" 17年	34,807	35.0	888,893	34.6
平成 2年	24,526	41.0	604,674	40.7	" 18年	35,681	34.8	895,829	33.8
" 7年	28,398	39.1	704,092	38.7	" 19年	36,691	34.8	923,666	33.8
" 12年	30,465	35.1	757,558	34.5	" 20年	37,731	35.0	960,917	34.2
" 13年	30,622	34.2	771,415	33.9					

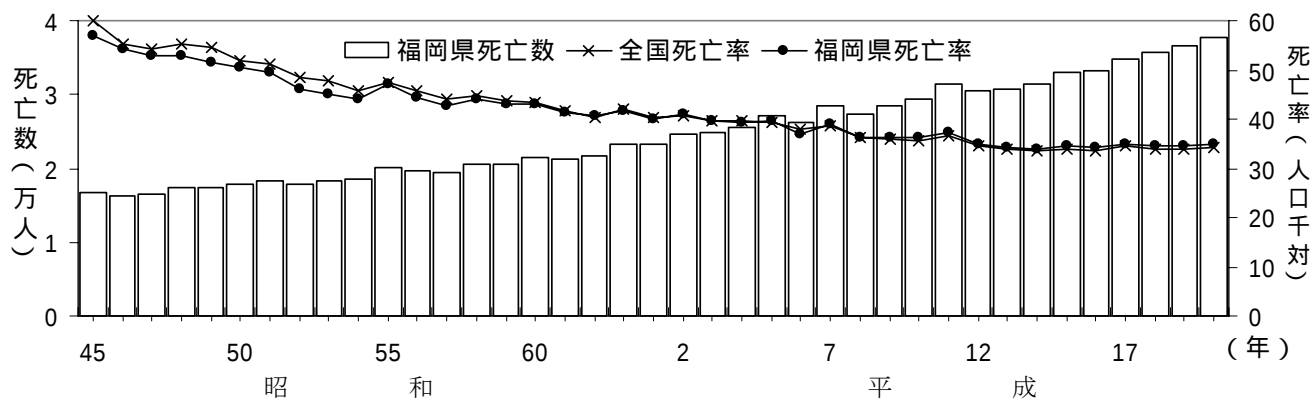


図 3.13 65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移

65 歳以上の高齢者の性別・死因別にみた死亡数及び死亡割合を図 3.14 に示す。平成 20 年の本県の 65 歳以上の高齢者における死亡数は、男が 18,516 人、女が 19,215 人だった。性別・死因別の死亡数をみると、男で最も多かったのは悪性新生物の 6,513 人（35.2%）だった。次いで肺炎の 2,390 人（12.9%）、心疾患の 1,966 人（10.6%）の順だった。また、女で最も多かったのは悪性新生物の 4,765 人（24.8%）だった。次いで心疾患の 3,079 人（16.0%）、肺炎の 2,281 人（11.9%）の順だった。

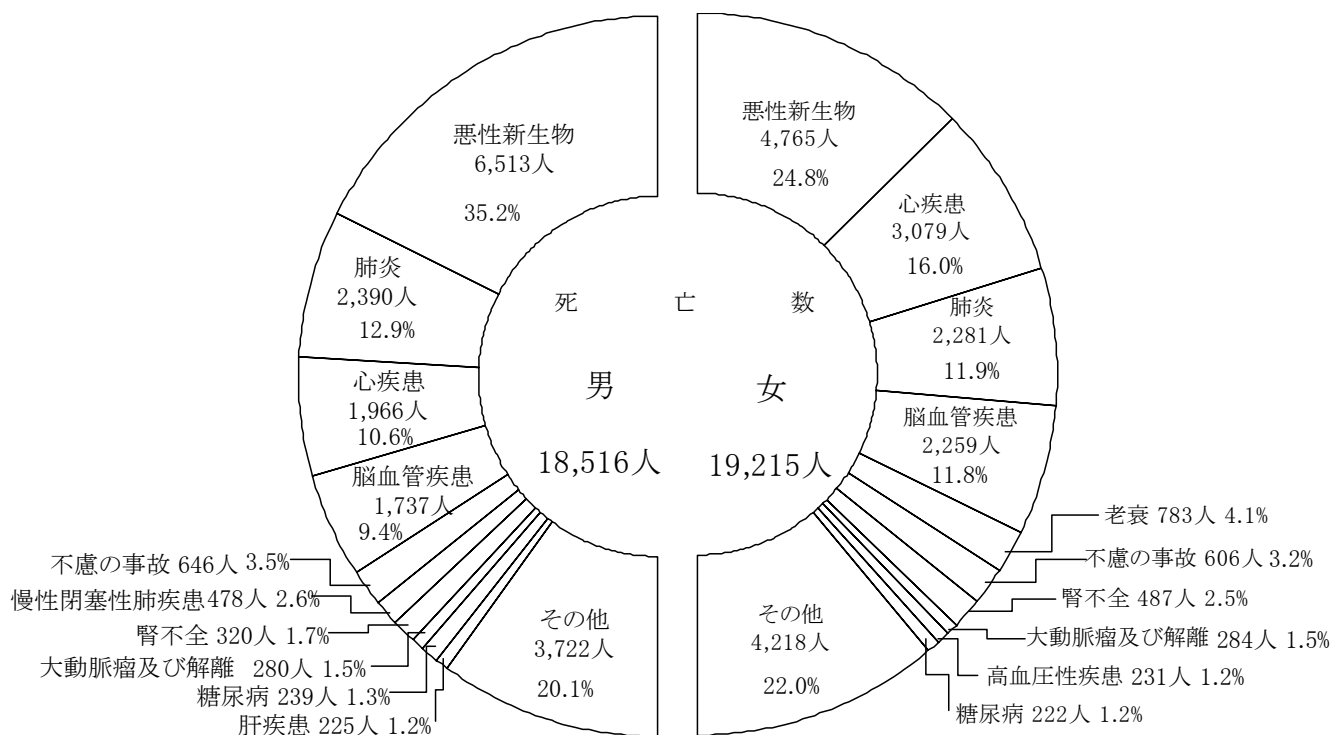


図 3.14 65 歳以上の高齢者における性・死因別にみた死亡数及び死亡割合（平成 20 年・福岡県）

4 死 産

死産数及び死産率の推移を第4.1表に示す。平成20年の本県の死産数は1,424胎、死産率〔出産（出生＋死産）千対〕は29.6だった。また、自然死産数は530胎、自然死産率は11.0、人工死産数は894胎、人工死産率は18.6だった。

第4.1表 死産数・死産率（出産千対）の推移

年次	総 数			自 然			人 工		
	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国
	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率
昭和25年	10,752	89.7	84.9	5,027	41.9	41.7	5,725	47.7	43.2
" 30年	9,947	115.2	95.8	4,269	49.4	44.5	5,678	65.7	51.3
" 35年	10,427	134.1	100.4	4,966	63.9	52.3	5,461	70.2	48.1
" 40年	7,949	103.5	81.4	4,285	55.8	47.6	3,664	47.7	33.8
" 45年	6,199	81.7	65.3	3,602	47.5	40.6	2,597	34.2	24.7
" 50年	4,793	63.2	50.8	3,009	39.7	33.8	1,784	23.5	17.1
" 55年	3,753	55.1	46.8	2,044	30.0	28.8	1,709	25.1	18.0
" 60年	3,588	57.5	46.0	1,543	24.7	22.1	2,045	32.8	23.9
平成 2年	2,689	52.9	42.3	1,051	20.7	18.3	1,638	32.2	23.9
" 7年	1,935	39.7	32.1	683	14.0	14.9	1,252	25.7	17.2
" 12年	1,858	37.8	31.2	593	12.1	13.2	1,265	25.7	18.1
" 13年	1,856	38.0	31.0	619	12.7	13.0	1,237	25.3	18.0
" 14年	1,795	37.2	31.1	579	12.0	12.7	1,216	25.2	18.3
" 15年	1,716	36.7	30.5	556	11.9	12.6	1,160	24.8	17.8
" 16年	1,792	38.2	30.0	585	12.5	12.5	1,207	25.7	17.5
" 17年	1,605	35.6	29.1	556	12.3	12.3	1,049	23.3	16.7
" 18年	1,495	31.9	27.5	505	10.8	11.9	990	21.2	15.6
" 19年	1,451	30.3	26.2	534	11.2	11.7	917	19.2	14.5
" 20年	1,424	29.6	25.2	530	11.0	11.3	894	18.6	13.9

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成20年の本県の保健所管内別にみた死産率を図4.1に示す。最も死産率が低かったのは福岡市西区の22.5だった。次いで久留米の23.2、久留米市の23.7、宗像の24.5、粕屋の25.6の順だった。

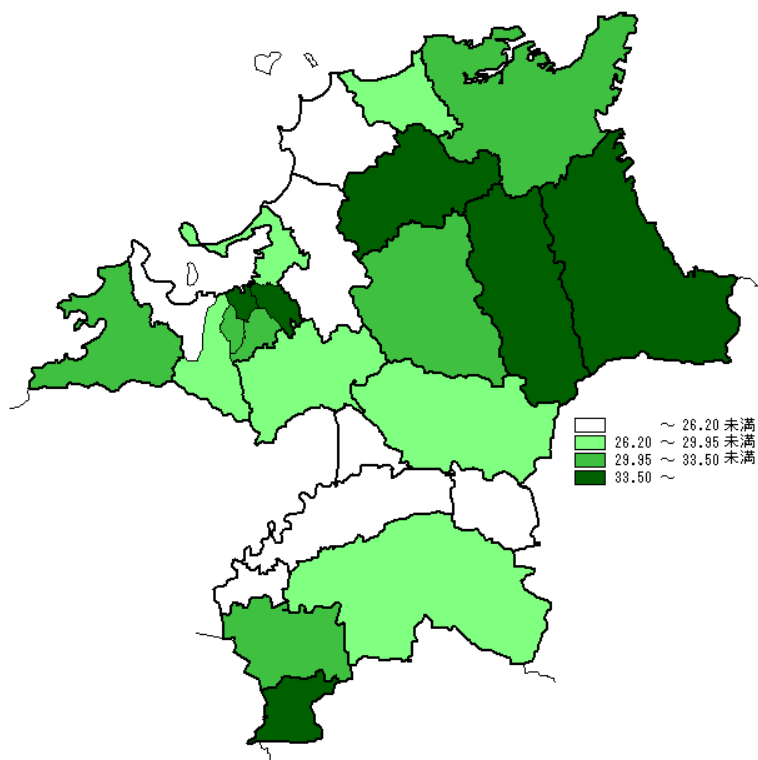


図4.1 保健所管内別にみた死産率（出産千対）（平成20年・福岡県）

5 婚 姻

婚姻件数及び婚姻率の推移を第 5.1 表に示す。平成 20 年の本県の婚姻件数は 30,017 件、婚姻率（人口千対）は 6.0 だった。

第 5.1 表 婚姻件数・婚姻率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率		婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率
昭和22年	39,288	12.4	934,170	12.0	" 7年	30,355	6.2	791,888	6.4
" 25年	32,614	9.2	715,081	8.6	" 12年	30,640	6.1	798,138	6.4
" 30年	31,424	8.1	714,861	8.0	" 13年	31,143	6.2	799,999	6.4
" 35年	37,184	9.3	866,115	9.3	" 14年	30,358	6.1	757,331	6.0
" 40年	37,816	9.5	954,852	9.7	" 15年	29,284	5.8	740,191	5.9
" 45年	38,206	9.5	1,029,405	10.0	" 16年	28,490	5.7	720,417	5.7
" 50年	36,937	8.7	941,628	8.5	" 17年	28,715	5.7	714,265	5.7
" 55年	32,007	7.0	774,702	6.7	" 18年	30,006	6.0	730,971	5.8
" 60年	29,208	6.1	735,850	6.1	" 19年	29,486	5.9	719,822	5.7
平成 2年	27,377	5.7	722,138	5.9	" 20年	30,017	6.0	726,106	5.8

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 20 年の本県の市区町村別にみた婚姻率を図 5.1 に示す。最も婚姻率が高かったのは粕屋町の 10.70 だった。次いで福岡市博多区の 9.6、福岡市中央区の 8.6、北九州市小倉北区の 7.2、福岡市東区の 7.1 の順だった。

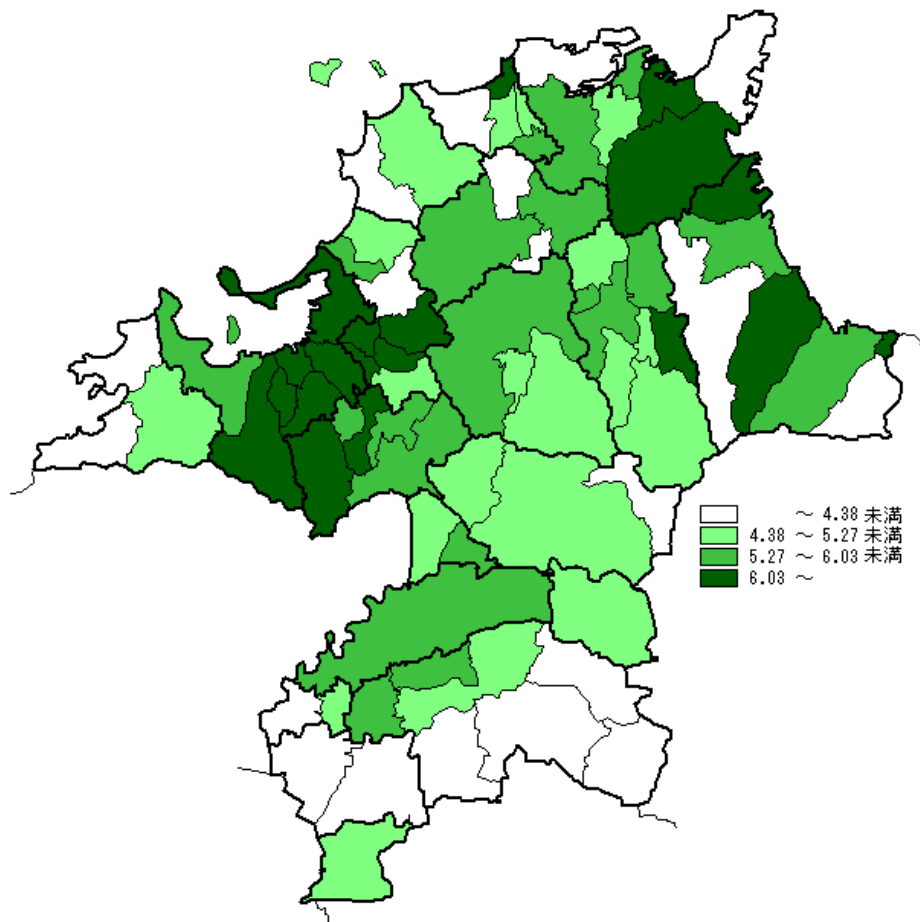


図 5.1 市区町村別にみた婚姻率（人口千対）（平成 20 年・福岡県）

6 離 婚

離婚件数及び離婚率の推移を第 6.1 表に示す。平成 20 年の本県の離婚件数は 11,037 件、離婚率は 2.20 だった。

第 6.1 表 離婚件数・離婚率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率		離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率
昭和22年	3,918	1.23	79,551	1.02	" 7年	9,064	1.85	199,016	1.60
" 25年	4,402	1.25	83,689	1.01	" 12年	12,053	2.42	264,246	2.10
" 30年	4,336	1.12	75,267	0.84	" 13年	13,230	2.65	285,911	2.27
" 35年	3,971	0.99	69,410	0.74	" 14年	13,241	2.64	289,836	2.30
" 40年	4,113	1.04	77,195	0.79	" 15年	12,779	2.55	283,854	2.25
" 45年	4,879	1.22	95,937	0.93	" 16年	11,870	2.36	270,804	2.15
" 50年	5,655	1.33	119,135	1.07	" 17年	11,567	2.31	261,917	2.08
" 55年	7,156	1.57	141,689	1.22	" 18年	11,291	2.25	257,475	2.04
" 60年	8,918	1.88	166,640	1.39	" 19年	11,115	2.22	254,832	2.02
平成 2年	7,699	1.61	157,608	1.28	" 20年	11,037	2.20	251,136	1.99

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 20 年の本県の市区町村別にみた離婚率を図 6.1 に示す。星野村は離婚件数が 0 だった。率が最も低かったのは矢部村の 0.68、次いで東峰村の 0.78、みやま市の 1.13、立花町の 1.27 の順だった。

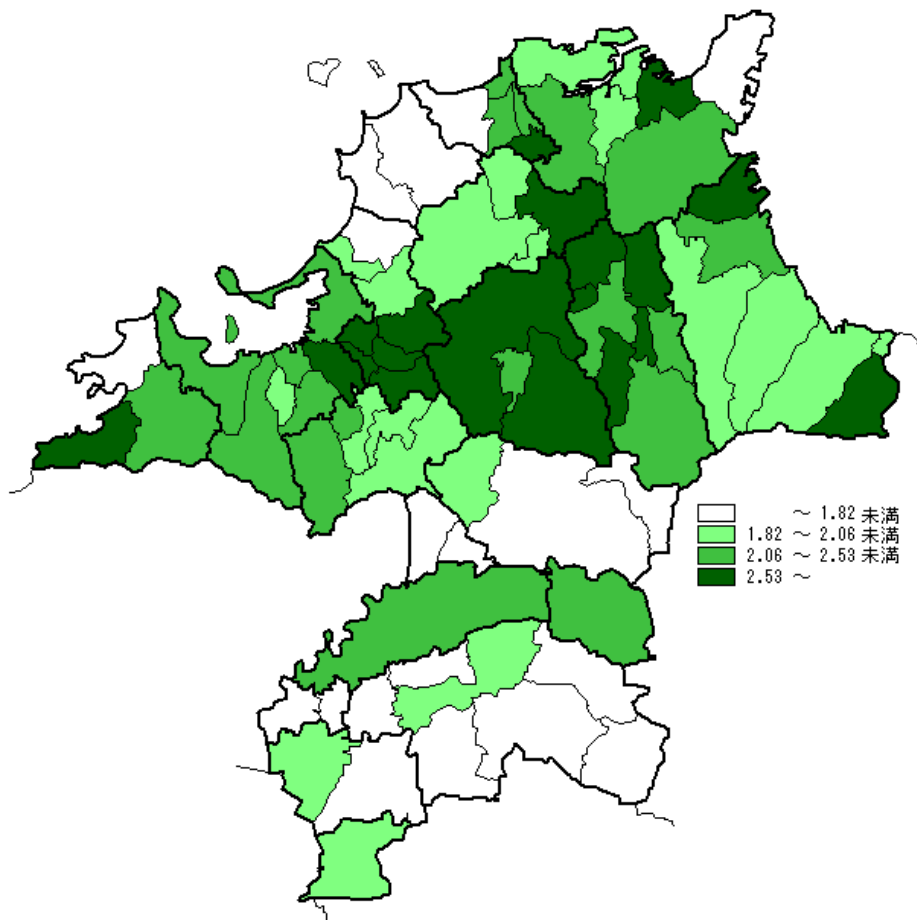


図 6.1 市区町村別にみた離婚率（人口千対）（平成 20 年・福岡県）